

目次

1～5：英文の仕組み①～⑤

6：代名詞①

7～9：英文の仕組み⑥～⑧

10～12：過去形①～③

13：進行形

14～20：助動詞①～⑦

21～24：名詞と冠詞①～④

25～26：数・量を表す形容詞①～②

27～31：代名詞②～⑥

32：数・量を表す形容詞③

33：副詞①／34～36：疑問詞①～③

37～38：いろいろな文①～②

39～42：文型①～④

43～46：比較①～④

47～49：受動態①～③

50～52：現在完了①～③

53～55：不定詞①～③

56～57：動名詞①～②

58：分詞①

59～63：前置詞①～⑤

64～68：接続詞①～⑤

69：疑問詞④

70～71：関係詞①～②

72：仮定法①

↓ 英文法超基礎シリーズ 再生リスト ↓



<英文法超基礎①> Lv.☆☆☆☆☆ 対象:中1~

① アルファベット・単語

① 英語で使う文字はアルファベットといい、全部で26コあるので、何度も書いて覚えよう!

(1.)・(2.)・(3.)・(4.)・(5.)・(6.)
(7.)・(8.)・(9.)・(10.)・(11.)・(12.)
(13.)・(14.)・(15.)・(16.)・(17.)・(18.)
(19.)・(20.)・(21.)・(22.)・(23.)・(24.)
(25.)・(26.)

② apple (リンゴ) や you (あなた) のように、アルファベットが決まった順番で並ぶと、意味のあることばになる。これを (27.) という。

③ アルファベットには (28.) と (29.) があり、文の最初の単語は (30.) で始める! (31.) や (32.) などの固有名詞も (30.) で始まる。

This is a pen. 「これはペンだ」 / Ryota 「リョウタ」 / Japan 「日本」

※ 「私は」 を意味する (33.) はいつでも・どこでも大文字!

Mr. ~ 「~さん, ~先生」 などとも大文字で始める!

② 文の作り方

文の最初は (30.) で始め、文の終わりには (34.) [35.] をつける。

I am a student. 「私は学生だ」 / He likes baseball. 「彼は野球が好きだ」

<英文の作り方>

英文は (36.) ・ (37.) が (38.) という順番!!

↳ この部分を (39.) ↳ この部分を (40.) という

(例) baseball, play, they → They play baseball.
「野球」 「~をする」 「彼らは」 彼ら^が ^{する} 野球^を

(問) 次の日本語の文を英文に直そう。

あなたは本を読む。 「あなた」 → you / 「本」 → a book / 「読む」 → read

(41.)

＜英文法超基礎プリント②＞ Lv. ★★☆☆☆ 対象：中1～

1 動詞[V]とは

- ・「だれか」や「何か」が「1. _____」を表すことばを(2. _____)[3. _____]という。
go「行く」/ run「走る」/ have「～を持つ」/ swim「泳ぐ」…

2 活用

- ・動詞には「4.」「5.」「6.」「7.」「8.」の5つの形がある!

原形 現在形 過去形 過去分詞形 ing形

(例) go (9.) (10. /) (11.) (12.) (13.)

③動詞の後にくることは ~まずは3パターン!~

- ① 動詞「～する」→「14. 』を表すことばがくる! ← (15.) [16.] といふ。

(例) I read a book. 「私は本を読む」

You have a bag. 「あなたは **カバン**を持っている」

- ②動詞「へする」→「17. 」 「18. 」の2つの(16.)がくる!

(例) I buy her a book. 「私は彼女に本を買う。」

- ③動詞「へする」→「19.」「20.」「21.」「がくる!

(例) You run **fast**. 「あなたは**速く**走る。」

I run in the park in the morning. 「私は午前中、公園で走っている」

4 動詞の分類

- ・ ①や②のように、後に「22.」がくる動詞を(23.)、

- ③のようなこない動詞を(24.)という。

(例) I know the answer. 「私はその答えを知っている」

I ^{go} to school. 「私は学校に行く。」

※動詞によては、(25.)「～**が**好きだ」や(26.)「～**に**会う」のように、「何を？」ではないパターンもある。

<英文法超基礎プリント③> Lv.★★☆☆☆ 対象:中1~

1 ^{ビー}be動詞と一般動詞

- ・動詞には (1.)と (2.)の2種類がある。1は名前の通り、
原形は **be** で、これ1コだけ! 2は (3.)の動詞 (play「~する」とか eat「食べる」
study「勉強する」とか) のことです!

2 be動詞の形

be動詞の原形は (4.) だけやけど、be動詞は (5.) が何かによって、
3パターンの変化をする!

☆ be動詞の変化先

I「私は」→ (6.) / You「あなた(たち)は」→ (7.)
複数 (We「私たちは」, They「彼(女)らは、それらは」, booksなど) → (8.)
その他すべて → (9.) 本が2冊以上あるってこと!

(例) I am a teacher. 「私は先生だ」 You are a student. 「あなたは生徒だ」
We are young. 「私たちは若い」 Tom is my friend. 「トムは私の友達だ」

3 be動詞の働き

be動詞には2つの用法がある!

① 主語と (10.) になる! ← このことばを (11.) [] といふ。

(He is shy. 「彼は恥ずかしがりやだ」 He「彼は」= shy「恥ずかしがりや」
They are my brother. 「彼らは私の兄弟だ」 They = my brother

☆ (10.) の後ろには C となる (12.) か (13.) が続く!

② 「14. 」という存在を示す!

(She is in my room. 「彼女は私の部屋にいる」
It is on my desk. 「それは私の机にある」

☆ 後ろには in や on のような 「15. 」を示す (16.) がくる
ことが多い!

be動詞の働きは (17.) か (18.) のどちらか!

<英文法超基礎プリント④> Lv. ★☆☆☆☆ 対象: 中1~

① 一般動詞と主語の関係

・一般動詞は(1.)の動詞のことで、be動詞と同じように主語が何かによって、(2.)に変化が起こる!

→ (3.)となるモノのとき! = 主語がその他のモノのとき!

(例) I play soccer. 「私はサッカーをする」

→ He plays soccer. 「彼はサッカーをする」

② 一般動詞の変形4パターン

be動詞は主語によって is/am/are のようにガリリと変わったが、一般動詞は一部を除いて(4.)だけ変化する!

	原形の例	語尾変化	ポイント
パターン1	like, run, play, eat	likes, runs	語尾に(6.)をつける
パターン2	go, teach, wash, mix	goes, teaches	語尾がss, sh, ch, o, x → (7.)
パターン3	study, try, carry	studies, tries	語尾が子音字+y → yを(8.)
パターン4	have	(5.)	不規則変化

※子音字: 母音[a/i/u/e/o]以外の文字

・-s, -esの発音

○ふつうは[ズ]と発音する → runs, plays, goes

○[k][p][f][t]の音のあとのsは(9.)と発音する → likes, helps

○[j][tʃ][ʒ][dʒ][z][s]の音のあとのsは(10.)と発音する → teaches, uses

③ セットで覚えておく語

Tom goes to school. 「トムは学校に行く」 → go to ~ : (11.)

She listens to music. 「彼女は音楽を聞く」 → listen to ~ : (12.)

He looks at her. 「彼は彼女を見る」 → look at ~ : (13.)

↑ look単体だとイミは「14. 」 He looks happy. 「彼は幸せそうに見える」

※主語がその他のモノ、これを3人称・単数というが、動詞の語尾に-sがつくのは(15.)の文のときのみ! だからこの-sを「3単現のS」ともいう。

<英文法超基礎プリント⑤> Lv.★★★★☆ 対象: 中1~

一部高校レベル

① 名詞

人やモノを表すことばを(1.)という。aとかtheとかとよくセットになる!
 (例) apple 「リンゴ」/ notebook 「ノート」/ milk 「牛乳」/ Japan 「日本」/ three 「3」...

② 名詞の働き ~メインの4つ~

① (2.)になる!

The dog is cute. 「その犬^②かわいい」
 She has two brothers. 「彼女に^②兄弟が2人いる」

② (3.)になる! ← 「何を? 誰に?」

The boy plays soccer. 「その少年^②サッカー^②している」

③ (4.)になる! ← (5.)になるヤツ!

That man is a teacher. 「あの男の人^③先生だ」

④ (6.)になる! ※前置詞: in 「~に, ~で」 with 「~といっしょに」など

I swim (in) the pool. 「私はプールで泳いでいる」
 Tom plays soccer (with Ken) (on Sunday). 「トムは日曜日にケンとサッカーをする」

③ 名詞の働き ~サブの2つ! ~ (本当は3つやけど、後ほど3つ目はやります!)

① (7.): 名詞を別の名詞で言いかえること!

The man, the ^{プレジデント}President of the U.S., came to Japan.
 「アメリカの大統領である男は、日本に来た」

★ (8.)の形で表す! 「9. 」と訳す

② (10.)・(11.)・(12.)・(13.)を表す名詞は(14.)の働きができる。

→ この働きをするときは、必ず説明される(15.)・(16.)の(17.)に置く!!

(例) He walks two kilometers every night. 「彼は毎晩2キロ歩く」

He is twenty years old. 「彼は20歳だ」

<英文法超基礎プリント⑥> Lv.★☆☆☆☆ 対象: 中1~

① 代名詞とは

名詞の代わりをすることばを(1.)といい、名詞と同じように
(2.)や(3.)となる。

Tom likes tennis. 「トムはテニスが好きだ」/ I have a dog. 「私は犬を飼っている」
→ He likes tennis. 「彼はテニスが好きだ」/ → It is black. 「それは黒い色をしている」

② 主格の代名詞

もともと(4.)であった名詞を言い換えたモノが主格の代名詞!

主語グループ	代名詞(単数: 1人・1つ)	代名詞(複数: 2人・2つ)
1人称(自分)グループ	(5.) 「私は」	(6.) 「私たちは」
2人称(相手)グループ	(7.) 「あなたは」	(8.) 「あなたたちは」
3人称(その他)グループ	(9.) / (10.) / (11.) 「彼は」 「彼女は」 「それは」	(12.) 「彼らは」 「彼女らは」 「それらは」

They are cats. 「それらはネコだ」/ She is a teacher. 「彼女は先生だ」

③ 目的格の代名詞

もとの名詞が(13.)であるときは目的格の代名詞を使う!

グループ	単 数	複 数
1人称	(14.) 「私に・を」	(15.) 「私たちに・を」
2人称	(16.) 「あなたに・を」	(17.) 「あなたたちに・を」
3人称	(18.) / (19.) / (20.) 「彼に・を」 「彼女に・を」 「それに・を」	(21.) 「彼らに・を」 「彼女らに・を」 「それらに・を」

Kumi helps Tom. 「クミはトムを助ける」

→ (22.) helps (23.). 「彼女は彼を助ける」

Ken and Ryota make many people dinner. 「ケンとリョウタは多くの人に夕食を

→ (24.) make (25.) dinner. 「彼らは彼らに夕食を作る」 作る

★ inやwithなどの(26.)のあとに代名詞を使うときも(27.)にする!

You play soccer with Mary. 「あなたはメアリーといっしょにサッカーをする」

→ You play soccer with (28.). 「あなたは彼女といっしょにサッカーをする」

4 所有格の代名詞

John's father is a doctor. 「ジョンのお父さんは医者だ」

(29.)で「~の…」という所有の意味を表し、これを表す名詞を代名詞にしたモノを所有格の代名詞という。

グループ	単 数	複 数
1人称	(30.) 「私の」	(31.) 「私たちの」
2人称	(32.) 「あなたの」	(33.) 「あなたたちの」
3人称	(34.) / (35.) / (36.) 「彼の」 「彼女の」 「その」	(37.) 「彼らの」 / 「彼女らの」 / 「それらの」

John's father is a doctor.

→ (38.) father is a doctor. 「彼のお父さんは医者だ」

5 指示代名詞

近くにあるモノや人を指す → (39.) 「これは・この」^{複数} → (40.) 「これらは・これら」

離れたところにある
モノや人を指す → (41.) (単数) (42.) (複数)
「あれは・あの」 「あれらは・あれらの」

(43.) is a new table. 「これは新しいテーブルだ」

→ (44.) (45.) is new. 「この机は新しい」

6 所有代名詞

This pen is my pen. 「このペンは私のペンだ」

「pen」が2回出てきて、しつこい感じがする... このときに使うのが **所有代名詞**!

これを使うと、「my pen」のような (46.) を1つに言い換えることができる!

グループ	単 数	複 数
1人称	(47.) 「私のもの」	(48.) 「私たちのもの」
2人称	(49.) 「あなたのもの」	(50.) 「あなたたちのもの」
3人称	(51.) 「彼のもの」 / (52.) 「彼女のもの」	(53.) 「彼ら・彼女らのもの」

This pen is my pen. → This pen is (54.). 「このペンは私のものだ」

※「~'s」でも同じように使える!

That pen is Tom's. 「あのペンはトムの(ペン)だ」

<英文法超基礎プリント⑦> Lv.☆☆☆☆☆ 対象: 中1~

① 形容詞とは

人やモノの性質・状態や数量などを表すことばを(1.)という。

This is a new bike. 「これは新しい自転車だ」

This bike is new. 「この自転車は新しい」

修飾する: ある語を詳しく説明する

② 形容詞の働き

形容詞は(2.)に置いてその名詞を修飾したり、

(3.)に置いて(4.)の性質や状態を説明する。

① He is a kind boy. 「彼は親切な男の子だ」 ← (5.)

② He is kind. 「彼は親切だ」 ← (6.) [C]

③ 副詞について

動作・状態について程度・様子などを表すことばを(7.)という。

その働きは(8.)を修飾すること!

• She speaks English well. 「彼女は上手に英語を話す」 ← (9.)を修飾

• He is very busy. 「彼はとても忙しい」 ← (10.)を修飾

• She speaks English very well. 「彼女はとても上手に英語を話す」
← (11.)を修飾

☆ 副詞の多くは文の主要素[S・V・O・C]の(12.)に置かれる!

I run hard. 「私は一生懸命走る」 ← (13.)のあと

I play tennis hard. 「私はテニスを一生懸命する」 ← (14.)のあと

I am free today. 「私は今日はヒマだ」 ← (15.)のあと

☆ 副詞の中には、(16.)を修飾するモノもある。そのとき(17.)に置かれることが多い。

Sadly, he is poor. 「悲しいことに、彼は貧しい」

<英文法超基礎プリント⑧> Lv. ★☆☆☆☆ 対象: 中1~

1 ^{へいじふ}平叙文

質問「~ですか?」でも命令「~しなさい」でもなく、ものごとをそのまま伝える文を平叙文という。(1.)文(「~です」)と(2.)文(「~でない」)がある。

2 be動詞の平叙文

He is a junior high school student. 「彼は中学生だ」

He is not a junior high school student. 「彼は中学生ではない」

★ be動詞の否定文の作り方

(3.)の(4.)に(5.)を入れるだけ!

★短縮形

be動詞

be動詞+not

I

am →

(6.)

(13.)

you, we, they

are →

(7.)

(8.)

(9.)

(14.)

()

he, she, it

is →

(10.)

(11.)

(12.)

(15.)

()

3 一般動詞の平叙文

★ 一般動詞の否定文の作り方

一般動詞の(16.)に(17.)を入れる!

I

like

soccer.

「私はサッカーが好きだ」

I

do not

like

soccer.

「私はサッカーが好きではない」

→

I (18.)

like

soccer.

She

likes

soccer.

「彼女はサッカーが好きだ」

She

does not

like

soccer.

「彼女はサッカーが好きではない」

→

She (19.)

like

soccer.

否定文にすると一般動詞は(20.)に戻ることには注意!

★ don't / doesn't の使い分け

忘れてる人は④へ!

主語が(21.)

のとき doesn't! それ以外は don't!

<英文法超基礎プリント⑨> Lv. ★☆☆☆☆ 対象: 中1~

1 be動詞の疑問文

「～しますか?」とたずねる文のことを (1.) という。

☆ be動詞の疑問文の作り方

be動詞を (2.) に持ってきて、最後に「3. 」をつけるだけ!

「はい」→ (4.)

「いいえ」→ (5.)

① You are a teacher. 「あなたは先生です」

② Are you a teacher? 「あなたは先生ですか」

→ Yes, I am. / No, I am not [I'm not] 「はい、そうです/いいえ、違います」

☆ 「あなたは〇〇ですか?」の問いに対しては「6. 」を主語にして答える!

2 一般動詞の疑問文

☆ 一般動詞の疑問文の作り方

文頭に (7.) を持ってきて、最後に「?」をつける!

「はい」→ (8.)

「いいえ」→ (9.)

① You read a book. 「あなたたちは本を読む」

② Do you read a book? 「あなたたちは本を読みますか」

→ Yes, we do. / No, we don't. 「はい、読みます/いいえ、読みません」

↑ 「あなたたちは～か?」と聞かれたら「10. 」を主語にして答える。

③ He likes baseball. 「彼は野球が好きだ」

④ Does he like baseball? 「彼は野球が好きですか」

→ Yes, he does. / No, he doesn't. 「はい、好きです/いいえ、好きではない」

3 疑問文に対する返事の仕方

Is Tom your classmate? → Yes, (11.) is.

Are Tom and Kumi busy? → No, (12.) aren't.

Does your brother play soccer? → Yes, (13.) does.

Is that Tokyo Tower? → Yes, (14.) is.

<英文法超基礎プリント⑩> Lv.★☆☆☆☆ 対象:中1~

1 be動詞の過去形

過去を表したいとき、動詞を(1.)にして表す。「~だった」を表し、「今は違う」というニュアンスになる。

★be動詞の過去形

is / am → (2.) are → (3.)

He **was** a teacher. 「彼は先生だった」/ They **were** kind. 「彼らは親切だった」

2 be動詞の過去形の否定文

(4.)の後ろに「not」を入れる!

She **was not** in Osaka. 「彼女は大阪にいなかった」
→ She (5.) in Osaka.

You **were not** busy. 「あなたは忙しくなかった」
→ You (6.) busy.

3 be動詞の過去形の疑問文

(7.)を(8.)に持ってきて最後に「?」をつける!

Was Ken your classmate? - Yes, (9.).
「ケン是你のクラスメイトでしたか」 - 「はい、そうでした」

Were they angry? - No, (10.).

4 過去を示す語句

以下の単語が出てきたら、「過去」を表します!

(11.)「昨日」/ (12.)「前の〜」/ (13.)「〜前」
(14.)「[]」その時

I **was** in Tokyo yesterday. 「私は昨日、東京にいた」

I **was** in Tokyo last week. 「私は先週、東京にいた」

They **were** in Osaka two days ago. 「彼らは2日前大阪にいた」

We **were** hungry then. 「私たちはその時お腹がすいていた」

<英文法超基礎プリント⑪> Lv.☆☆☆☆☆ 対象:中1~

①一般動詞の過去形

一般動詞の過去形は、もともになる動詞の語尾に(1.)をつけるのが基本!

I visited Tokyo last week. 「私は先週、東京を訪れた」

②一般動詞の過去形の変形4パターン

	原形	過去形	変化ポイント
パターン1	play, help など	played, helped	語尾に(2.)
パターン2	use, like など	used, liked	語尾が(3.)のとき(4.)のみ
パターン3	study, cry など	studied, cried	語尾が(5.)のとき、yを(6.)
パターン4	see, go など	saw, went	不規則に変化

③一般動詞の過去形の否定文

☆一般動詞の過去形の否定文の作り方

一般動詞の(7.)に(8.)[(9.)]を入れる!

He does not watch TV. 「彼はテレビを見ない」

→ He did not watch TV. 「彼はテレビを見なかった」

④一般動詞の過去形の疑問文

☆一般動詞の過去形の疑問文の作り方

文頭に(10.)を持ってきて、最後に?をつける!

「はい」→(11.)

「いいえ」→(12.)

⑤ You played tennis yesterday. 「あなたは昨日テニスをした」

⑥ Did you play tennis yesterday? 「あなたは昨日テニスをしましたか」

→ Yes, (13.)/ No, (14.)

☆過去形でも否定文・疑問文において、一般動詞は(15.)に戻る!

He didn't read a book. 「彼は本を読まなかった」

Did she buy a book? 「彼女は本を買いましたか」

<英文法超基礎プリント⑫>Lv.☆☆☆☆☆ 対象:中1~

① 不規則動詞の過去形

☞ また後でやります!

playや helpのような規則動詞の過去形・過去分詞形は語尾に(1.)
をつけて作るが、goやseeなど是不規則動詞といい、その過去形・過去分詞形
は不規則に変化するので、**暗記**をせなアカン!!

↓ 4つの変化パターンがある!

① AAAパターン: 原形・過去形・過去分詞形の3つが全て同じ

- ・ ^{カット}cut 「を切る」 → (2. / /)
- ・ ^{プット}put 「を置く」 → (3. / /)
- ・ ^{リード}read 「を読む」 → (4. / /)
- ・ ^{ヒット}hit 「を打つ」 → (5. / /)

② ABBパターン: 過去形・過去分詞形が同じ

- ・ ^{ブリング}bring 「を持ってくる」 → (6. / /)
- ・ ^{ビルド}build 「を建てる」 → (7. / /)
- ・ ^{バイ}buy 「を買う」 → (8. / /)
- ・ ^{キャチ}catch 「をつかまえる」 → (9. / /)
- ・ ^{フィール}feel 「を感じる」 → (10. / /)
- ・ ^{ファインド}find 「を見つける」 → (11. / /)
- ・ ^{ホールド}hold 「を持っている」 → (12. / /)
- ・ have 「を持っている」 → (13. / /)
- ・ ^{ヒア}hear 「が聞こえる」 → (14. / /)
- ・ ^{キープ}keep 「をへにしておく」 → (15. / /)
- ・ ^{リーブ}leave 「を離れる」 → (16. / /)
- ・ ^{ロース}lose 「を失う」 → (17. / /) / ^{メイク}make 「を作る」 → (18. / /)
- ・ ^{ミート}meet 「に会う」 → (19. / /)
- ・ ^{セル}sell 「を売る」 → (20. / /) / ^{センド}send 「を送る」 → (21. / /)
- ・ ^{スPEND}spend 「を費やす」 → (22. / /)
- ・ ^{セイ}say 「を言う」 → (23. / /) / ^{シット}sit 「座る」 → (24. / /)
- ・ ^{スリープ}sleep 「眠る」 → (25. / /) / ^{スタンド}stand 「立つ」 → (26. / /)

① つづき

- ・ tell^{テル} → (27. / /) 「(人)に～を話す」
- ・ teach^{ティーチ} → (28. / /) 「を教える」
- ・ think^{シンク} → (29. / /) 「～と考える」

③ ABAパターン: 過去形だけがちがう形!

- ・ come^{カム} 「来る」 → (30. / /) / run → (31. / /)
- ・ become^{ビカム} 「～になる」 → (32. / /)

④ ABCパターン: 原形・過去形・過去分詞が全てちがう形!

- ・ break^{ブレイク} 「をこわす」 (33. / /)
- ・ begin^{ビギン} 「を始める」 (34. / /)
- ・ do^{ドゥ} 「をやる」 (35. / /) / eat^{イート} 「を食べる」 (36. / /)
- ・ forget^{フォーゲット} 「を忘れる」 (37. / /)
- ・ get^{ゲット} 「を得る」 (38. / /) / go (39. / /)
- ・ give^{ギブ} 「をあげる」 (40. / /)
- ・ know^{ノウ} 「を知っている」 (41. / /)
- ・ sing^{シング} 「を歌う」 (42. / /)
- ・ see^{シー} 「が見える」 (43. / /)
- ・ speak^{スピーク} 「話す」 (44. / /)
- ・ swim^{スウィム} 「泳ぐ」 (45. / /)
- ・ take^{テイク} 「を持っていく」 (46. / /)
- ・ throw^{スロウ} 「を投げる」 (47. / /)
- ・ write^{ライト} 「を書く」 (48. / /)

② 不規則動詞の過去形の文

- ① 肯定 Tom ate breakfast. 「トムは朝食を食べた」
- ② 否定 Tom did not eat breakfast. 「トムは朝食を食べなかった」
- ③ 疑問 Did Tom eat breakfast? 「トムは朝食を食べましたか」
- Yes, he did. / No, he didn't.

<英文法超基礎プリント⑬> Lv.★★☆☆☆ 対象:中1~

1 現在進行形

現在進行形とは、人間の動作や物事が(1.)を表す形!

☆進行形の作り方

(2.)で「3. 」と訳す

(現在形) She plays tennis. 「彼女はテニスをしている」←いつも
(現在進行形) She is playing tennis. 「彼女はテニスをしているところだ」←今

2 ing形の作り方

	原形	ing形	ポイント
パターン1	read	reading	動詞の語尾に(5.)をつける(基本!)
パターン2	use	using	語尾がeで終わるVは、(6.)をつける
パターン3	sit	sitting	語尾が「短母音+子音字」のVは(7.)
パターン4	lie	(4.)	不規則に変化

lie: 横たわる, うそをつく (lie/lay/lain & lie/lie/lie)

パターン3は覚えてしまった方が早い! 他に(8.)・(9.)・(10.)
などがある。

3 現在進行形の否定文・疑問文

⑧・⑨で習った作り方と同じ! (be動詞の否定文・疑問文と同じ!)

⑧ He is studying now. 「彼は今勉強している」

⑨ He (11.) now. 「彼は今勉強をしていない」

⑩ (12.) now? 「彼は今勉強しているのですか」

→ Yes, (13.) / No, (14.) 「はい、そうです/いいえ、していません」

4 現在形と現在進行形のちがい

☆現在形→「15. 」形 / 現在進行形→「16. 」形!

I have breakfast at 6. 「私は6時に(いつも)朝食を食べている」

I am having breakfast. 「私は(今)朝食を食べている(ところだ)」

⑤ 過去進行形

be動詞の部分を(17.

→ 「18.

)にして ing形を付けるだけ!

」 「19.

」と訳す!

- ① 肯 You were reading a book. 「あなたは本を読んでいた」
② 否 You weren't reading a book. 「あなたは本を読んでいなかった」
③ 疑問 Were you reading a book? 「あなたは本を読んでいましたか」
→ Yes, I was. / No, I wasn't.

⑥ 進行形にしない動詞

- ① (20.)を表す動詞: 変わらずその状態が続くことを表す動詞
think 「思う」 / know 「知っている」 / have 「持っている」など

(X) I'm knowing him. (O) I know him.

(X) I'm having a car. (O) I have a car. (O) I'm having lunch.

- ② (21.)を表す動詞: 「見えたり、聞こえたりする系」← 五感を使う
see 「見える」 / hear 「聞こえる」 / feel 「感じる」など

(X) I was seeing him. (O) I see him.

☆ (22.)が無いモノは進行形にできない!!

⑦ 進行形を使った表現

- ・ The old man was dying. 「そのお年寄りはお息をひきとろうとしていた」
dying: die 「死ぬ」の ing形 ↑ 「死にゆく途中にある」というのが直訳

「be動詞 + always + ~ing」: (23.)

- ・ She is always playing. 「彼女はいつも遊んでばかりいる」

<英文法超基礎プリント⑭> Lv.☆☆☆☆☆ 対象: 中1・2~

① 助動詞って?

動詞の(1.)に置いて、「2.

」を表すのが助動詞!

★助動詞の基本!

(3.)+(4.

)→「2.

」!

② 助動詞の種類

① (5.):意志「6.

」・予想「7.

」

{ I will go to the library. 「図書館に行くつもり!」

{ It will be sunny tomorrow. 「明日は晴れるだろう」

[主語との短縮形] I will → (8.) It will → (9.)... 「主語+will」で表す!

② (10.):可能「11.

」・許可「12.

」・推量「13.

」

{ He can swim very fast. 「彼はとても速く泳ぐことができる!」

{ You can use this notebook. 「このノートを使ってもいいよ!」

{ This can happen to anyone. 「これは誰にも起こりうる」

③ (14.):許可「15.

」・上から言うイメージ!・推量「16.

」

{ You may play games. 「ゲームをやってもいいよ」←お母さんが子どもに言うイメージ

{ It may rain tomorrow. 「明日、雨が降るかも!」

④ (17.):義務・強制「18.

」断定「19.

」

{ I must go now. 「もう行かなければならない」

{ He must be sad. 「彼は悲しんでいるにちがいない」

⇐ 助言レベル

⑤ (20.):義務「21.

」・判断「22.

」

{ You should believe him. 「彼を信じるべきだ」

{ She should get to your office in an hour. 「彼女は1時間で君の会社に
着くはず」

<英文法超基礎プリント⑮> Lv.★☆☆☆☆ 対象: 中1・2~

① 未来の文

英語で"未来"のことをいうときは動詞を変化させるのではなく、いくつかの単語を組み合わせるで表す。代表的な形は次の2つ!

① (1.) + (2.): 「3. 」 「4. 」

・ It will be rainy tomorrow. 「明日は雨が降るだろう」

・ I will go with her. 「私は彼女と一緒に行くつもりだ」

☆否定文の作り方→"will"の(5.)に notを入れるだけ!

I will not [6.] go to her party. 「僕は彼女のパーティーには行かないつもりだ」

☆疑問文の作り方→"will"を(7.)に持ってきて、最後に「?」

Will it rain? 「雨が降るだろうか」— Yes, it will / No, it won't.

② (8.) + (9.) + (10.): 「11. 」

・ I am going to live in Tokyo next month. 「来月、東京に住む予定だ」

③ I am not going to move. 「私は引越す予定はない」

④ Is he going to go to the library. 「彼は図書館に行く予定ですか」

→ Yes, he is. 「はい、そうです」 / No, he isn't. 「いいえ、そうではないです」

② willとbe going toのちがい

will→(12.)的で、自分の気持ちを表す。 「13. 」 「14. 」

be going to→(15.)的で確定的なイメージ。 「16. 」 「17. 」

We will take a break. 「休憩に入ろうよ」←みんなではうよって感じ

We are going to take a break. 「私たちは休憩をとる予定だ」

③ 未来を示す語句

tomorrow 「18. 」 / next ~ 「19. 」 / this+時~ 「20. 」

in the future 「21. 」 / some day 「22. 」

<英文法超基礎プリント⑬> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中1・2~

① canについて

意味	可能・能力「1. _____」/許可「2. _____」/推量「3. _____」
否定形	(4. _____) [5. _____]
過去形	(6. _____) 否定形→ (7. _____) [8. _____]

② 「可能」や「能力」を表す can

I **can play** the piano. → 否定文 I **can't play** the piano.
 「私はピアノをひくことができる」 「私はピアノをひくことができない」

★ (9. _____) + (10. _____) + (11. _____) でも表すことができる!

I **am able to play** the piano. 「私はピアノをひくことができる」

★ Canの疑問文の作り方

canを (12. _____) に持ってきて最後に "?" で 「13. _____」

Can you play the piano? - Yes, I can. / No, I can't.

= **Are** you **able to play** the piano? - Yes, I am. / No, I'm not.

「あなたはピアノをひくことができますか」

★ 「過去」を表す

I **could** swim very fast. 「私はとても速く泳ぐことができた」 ← そういう能力が
 あった

I **was able to swim** very fast. ← 実際にやってみてできた!

③ 「許可」を表す can

(14. _____) 「15. _____」 が代表的!

Can I use your computer? - (16. _____) / (17. _____).

「あなたのコンピュータを使ってもいい?」 - 「もちろん、いいよ!」

④ 「依頼」を表す can

(18. _____) で 「19. _____」 と依頼を表す!

(20. _____) を使えば、 「21. _____」 と丁寧な表現になる。

Can you open the door? 「ドアを開けてくれますか」

Could you open the door? 「ドアを開けていただけませんか」

- Sure. 「いいですよ」

5 「推量」を表す can

This **can** happen to anyone. 「これは誰にでも起こりうる」

She **can't** be here. 「彼女がここにいる(22.)」

6 よくまちがえる can の用法

「彼は英語ができる」

↪ be good at ~ : 「23.

✕ He can do English → ○ He is good at English.

<英文法超基礎プリント⑦> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中1・2~

① "may" について

意味	許可「1. _____」←「上から下に言うイメージ」/ 推量「2. _____」
否定形	(3. _____): 「4. _____」 「5. _____」
過去形	(6. _____) ⑥ (7. _____) ← 過去形は「許可」には使えない

② 「許可」を表す may

⑦ You **may** watch TV now. ← 「上下関係」を表す。
「今はテレビを見てもいいよ」 ラフに言うときは (8. _____) を使う。

⑧ (9. _____): 「10. _____」 ← 上の人に丁寧に許可を求める

May I come in? 「入ってもよろしいでしょうか」

— Yes, (11. _____) / Sure. 「はい、いいですよ」
No, (12. _____). 「いいえ、だめです」

"Yes, you may." と言って
しまうと、かなり上からになる...

⑨ (13. _____)? : 「(店員→客) 何かごようはございませんか」

⑩ You **may not** eat it. 「あなたはそれを食べてはいけません」
↑ ルール的にNGって感じ!

You **must not** eat it. 「あなたはそれを食べてはいけません」 ← 絶対禁止! って感じ

③ 「推量」を表す may

It **may** snow tonight. 「雪が降るかもしれない」 ← 半々ぐらいの自信があるイメージ

It **might** snow tonight. 「雪が降るかもしれない」 ← may よりは確信度が低い

⑪ He **may not** come to her birthday party.
「彼は誕生日パーティーに**来ない**かもしれない」

④ 祈願の may

May God bless you! 「神のご加護がありますように」

May you be very happy! 「ご多幸を祈ります」

<英文法超基礎プリント⑱> Lv.★★☆☆☆ 対象:中1・2~

① "must" について

意味	義務・強制「1. _____」 / 断定「2. _____」
否定形	(3. _____) (4. _____): 「5. _____」
過去形	なし

② 「義務」「強制」の must

You **must** go now. 「もう行かなければならない」 ← 絶対そうしろ! というイメージ

I **must** finish it by seven. 「7時までにそれを終わらせなければならない」

We **must** go there. 「私たちはそこに行かねばならない」

→ 主語が I とか we のような 1 人称の場合、「絶対やるぞ!」という強い決意を表す!

She **must** finish her homework. 「彼女は宿題を終わらせないとイケない」

→ 主語が she や he などの 3 人称の場合、その人たちが抱えてる義務を表す!

③ must と have to

You **have to** do it. 「あなたはそれをやらないとイケない」

He **has to** do it. 「彼はそれをやらないとイケない」

☆ must は「6. _____」「7. _____」に言い換えることができる!!

6, 7 には「やらないと仕方がない」というニュアンスがある!

※ 過去のことを話す場合は「8. _____」を使う。← must には過去形がない!

④ 否定文

You **must not** go there alone. } 「禁止」を表す!
「あなたは一人でそこへ (9. _____) 。

= (10. _____) (11. _____) there alone.

You **don't have to** come early. } もちろん主語がその他 (I, you 複数以外) やたら「doesn't」にする!
「早く来る (12. _____) 。

⑤ 「確信のある推量」を表す must

He **must be** angry. 「彼は怒っているにちがいない」 ← "be" とよくセットになる

☆ 反対の意味の「~のはずがない」と表したいときは (13. _____) を使う!

＜英文法超基礎プリント①＞ Lv.★★☆☆☆ 対象:中1・2～

① "shall"について

shall はあまり助動詞として使われないので、決まった表現を覚える!

(1.) : 「2. 」 ← “提案・申し出”の意味を表す

・ Shall I help you? 「お手伝いしましょうか」

— Yes, (3.). 「はい、お願いします」

・ Shall I open the door? 「ドアを開けましょうか」

- No, (4.).

(5.): 「6. 」 ← “提案・勧誘”の意味を表す

• Shall we dance?— (7.). / Yes, (8.).

「踊りませんか」

• Shall we go? — No, (9.) not. / I'm sorry, I can't.

「一緒に行かない？」 「いいえ、やめておきましょう。」

= (10.) go. 「一緒に行こう」— Yes, let's. 「うん、そうしよう」

② "should" について

should は shall の過去形で、「1. 義務・助言の意味を表す。」という

• You **should** believe her. 「彼女を信じるべきだ」

・ You **should** read this book. 「あなたはこの本を**読んだ方がいい**。」

→ (否) You **should not** [shouldn't] read this book.

「あなたはこの本を読むべきではない」

③「推量」を表す"should"

He should be back soon. 「彼はまもなく戻ってくるはずだ」

↑「3.」という意味になり、その度合いは must ほどではないが may よりも強い。

＜英文法超基礎プリント②＞Lv.★★★★☆ 対象：中1・2～

① 依頼を表す定型文

- (1.) : 2.

Will you open the window? 「窓を開けてくれませんか」

— (3.). / (4.). / Yes, I will. 「いいですよ」

- (5.) : r6.

Can you bring me a glass of water? 「水を一杯持ってきてくれるか」

— (7.) 「すみませんが、できません。」

- ・(8.) (9.) ←丁寧な表現

Would you close the door? 「ドアを閉めていただけませんか」

Could you tell me the way to the museum?

「博物館への行き方を教えていただけませんか」

② 許可を表す定型文

- (10.) : 11.

Can I use your pen? 「君のペンを使ってもいい?」

- (12) : 13.

May I ask you a question? 「質問してもよろしいでしょうか」

Yes, you can. 「どうぞ」 / No, you can't. 「いいえ、できません」

③ 勧誘・提案を表す定型文

- (14)) : 15.

Shall we play tennis? : 「いっしょにテニスをしませんか」

- (16.) : 17.

Will you come with me? 「私といっしょに来ませんか」

- (18.) : 19.

Shall I open the window? 「窓を開けましょうか」

<英文法超基礎プリント②>Lv.☆☆☆☆☆ 対象:中1・2~

① 数えられる名詞と数えられない名詞

名詞は数えられる名詞である(1.) [C]と
数えられない名詞である(2.) [U]に分けられる。

☆可算か不可算かの見分け方

「形」がありイメージしやすいモノ → (3.) 名詞 (例) book, dog, camera
「形」がなくイメージしにくいモノ → (4.) 名詞 (例) paper, water, love
→ 「材質・性質」として認識するモノ ← くだいても変わらないヤツ

② 名詞の複数形

英語では、人やモノが1人・1つを表す**単数**と2人・2つ以上を表す**複数**かを区別する! 名詞が(5.) 名詞である場合、**単数形**か**複数形**か必ずどちらかにする!

I have a dog. 「私は(1匹の)犬を飼っている」 ← 単数形

I have two dogs. 「私は2匹の犬を飼っている」 ← 複数形

☆名詞の複数形のパターン

- ① 基本は語尾に(6.)をつける → dog^ズ, book^ズ, girl^ズ...
- ② (7.)の語尾には(8.)をつける → box^{ボックス}es, dish^{ディッシュ}es...
- ③ 「9. 」の語尾には(10.)にする → baby → babies...
- ④ (11.)の語尾には(11.)を(12.)にする → leaf 「葉」 → leaves...
- ⑤ 不規則に変化する → woman → women / child → children / tooth → teeth...

③ 数えられない名詞を数えたい場合

不可算名詞でも、容器や単位を表すことばを使うと数えられるようになる。

(13.) : 「1杯の～」 I want a cup of coffee.

(14.) : 「コップ1杯の～」 I drink two glasses of water.

(15.) : 「1枚の～」 He uses a piece of paper.

(16.) : 「1切れの～」 I eat a slice of bread for breakfast.
「私は朝食に1切れのパンを食べる」

<英文法超基礎プリント②> L.v.★★★☆☆ 対象:中1・2~

① 不定冠詞の"a[an]"

モノや人が(1.)を表す場合、名詞の前に「2. 」をつける!(名詞が母音で始まるときは「3. 」をつける)

ポイント

可算名詞のとき、「いくつかのうちの1つ」を指すなら「4. 」を必ずつける!

(例) I'm **a** teacher. 「私は先生だ」 ← 「何もつけない teacherのままのこと」
→ teacherは可算名詞なので無冠詞はNG! 「先生」は世の中にいくらでもいるので、「先生と呼ばれている人たちの1人」という感じで「a teacher」となる。

② 「a[an]」の隠された働き

① My father gave me **a** pen. 「父は私にペンをくれた」

② The pen was my grandfather's. 「そのペンは祖父のだった」

①では「ペンと呼ばれているものの1本」をもらったとなり、聞き手からすると「どんな?」と聞きたくなる。「a」をつけることで「5. 」を話すよーと聞き手が聞きたくなるようにする働きがある!

②では「そのペン」と「the」をつけることで「6. 」というニュアンスになる。

★「a[an]」の隠れた働き

「a[an]」は聞き手が聞きたくなる(7.)のサイン!

③ 「1つの」= "a" ?

They went to the station on **a** bus. 「彼らはバスで駅に行った」

They went to the station on one bus. 「彼らは1台のバスで駅に行った」

「a[an]」は「いくつかのうちの1つ」を表すから、ただ単にバスで行ったよという(8.)を表す。

一方で「one」は「1台」という(9.)を表す! 「a[an]」が「1つの」となるのは「a day (1日)」や「an hour (1時間)」など(10.)を表す語のとき!

④「ちょっと」の"a"

I took a walk. 「私はちょっと歩いた」→「散歩した」

☆ "a[an]" = 「1」.

」も表す!

＜英文法超基礎プリント②＞Lv.★★☆☆☆ 対象:中1～

1 定冠詞の "the"

ものや人がすでに話に出てるなどで、文脈から「1. 旧情報を表すのが（2. ）の働き！」という

He is a teacher. I know the teacher well.
「彼は先生です」 「私はその先生をよく知っている」

☆ theの基本的な考え方

流れでわかるよねという(3.)的な感じ!

②常識的に決まるthe

The sun rises in the east. 「太陽は東からのぼる」
→「sun: 太陽」「east: 東」は「言わんでもわかるあの太陽、東やろ」, ていう感覚で the をつける。「a sun」だと宇宙にある恒星のうちの1つとなる。
他にも「moon: 月」「earth: 地球」「sea: 海」などがある。

③ みんなご存知の the

I went to the post office. 「私は(あそこ)郵便局へ行った」
→ 「4. 」 = 「日常的にあそこだね」という感覚で the を使う。
他にも 「5. 」や 「subway: 地下鉄」にこの the を使う。

4 グループの the

「6.」で特定のグループを表す!

(例) the Beatles: ビートルズ / the Sato: 佐藤家 / the Japanese: 日本人(全体)
the United States of America: アメリカ合衆国

「7.」で「同じタイプの人たち」を表せる!

(例) the rich: お金持ち / the poor: 貧乏人 / the young: 若者

5 総称の the

The computer has changed our life. 「コンピュータ(というものは)我々の生活を
→ (8.)で使うことが多い & 硬い学問チックな表現 変えた」

(9.)・(10.)・(11.)・(12.)の部分で使われる。

(例) Internet piano elephant hand

<英文法超基礎プリント②④> Lv.★★★★☆☆ 対象:中2~

①無冠詞

a[an]やtheのない状態を^{むかんし}無冠詞というが、その次の名詞が(1.)か(2.)かが決め手となる。dogなどの可算名詞の場合、(3.)の状態では使えない、つまり「a[an]」や「the」「~S」などが必要となり、milkなどの不可算名詞の場合、(3.)使ってもよい!

I have a cat. 「ネコを飼っている」 I drink milk. 「牛乳を飲む」

②無冠詞の複数形の働き

「私は犬好きです」と言いたいとき、どう表せばいいか?

- ① 「I like **a** dog.」だと「いつかあるうちのある犬が好き」となり、聞き手に「どんな犬?」と興味を持たせるニュアンスになるので、「犬好き」とはならない。
- ② 「I like **the** dog.」→「他の犬じゃなくて、さっき話した犬」という意味になる。
- ③ 「I like **dogs**.」→「犬全般が好き!」となり、これが正解!
↑ ちなみに、「I like dog.」としてしまうと、「犬の肉が好き」となってしまう...

無冠詞の複数形 = (4.)「5. 」を表す!!

③無冠詞のもう1つの働き

(6.)としてとらえる場合、無冠詞で表す! (□として考える)

(例1) I go to school by bike. 「私は自転車[□]で学校に行く」

→ school「学校」は「校舎」という具体的な建物を表すのではなく、「学校教育」という機能^{機能}を意味するので、無冠詞となる。

byは(7.)を表し「8. 」と訳す。このとき、後ろに来る名詞はある程度決まっていて、(9.)か(10.)となり、無冠詞で表す。

(例2) I became captain. 「私はキャプテンになった」

→ 1人で担う系の(11.)・(12.)・身分が補語(コール)・as(〜として)・同格(〜という)で使われる場合、無冠詞で表す。

<英文法超基礎プリント②⑤> Lv.★★★★☆☆ 対象:中1・2~

① someの用法(可算名詞)

I like dogs. 「犬好きだ」 ← 無冠詞の複数形なので「犬全般が好き」を表す!

I like **some** dogs. 「いくつかの犬が好き」

「some」は「1. _____」という意味が代表的だが、訳すと不自然になることが多い...

→ 「some」は「2. _____」という意味になる!

Some students don't study English.

「一部の生徒は英語を勉強していない」 → 「英語を勉強していない生徒もいるよ」

② someの用法(不可算名詞)

I bought **some** bread. 「(少量の)パンを買ってきた」

I like bread. 「パン(全般)が好きだ」 ← 「パン派」のこと!

☆ someの訳し方のコツ

some + 複数形[可算名詞]: 「3. _____」 「4. _____」

some + 不可算名詞: 「5. _____」 「6. _____」

③ someと疑問文

②⑥でやります!

someは疑問文・否定文になると(7. _____)になるって聞いたことあると思いますが、これは絶対的なルールではありません!!

Could you lend me **some** money? lend: ②に~を貸す

「お金を貸していただけませんか」

「お金」は money で覚えるのではなく、(8. _____)で覚えてしまう!

“money” 単体だと「9. _____」っていうニュアンスになり、「お金」を知らない人に何かを言うニュアンスになる。

(補足説明)

相手がOkしてくれることを前提に聞くときに、“some”を疑問文で使う。

(例文のようにお金を貸して。と言うときに、「貸さない」という返事は期待しないよね?)



メンドクさいので、「~を貸していただけますか?」と言うとき、特に「お金」のときは「some money」にすると覚えちゃった方が早いです!

4 その他の some の用法

I read it in some book. 「何カの本でそれを読みました」

★ some + 単数形 → 「10.」 ← 具体的にはわからんけど、あるのは確か!
。というニュアンス

※ 「a book」だと「聞き手をひきつける」内容になる!

＜英文法超基礎プリント②＞ Lv.★★★★☆ 対象:中1-2~

1 any の用法

「any」の基本的な意味は「1.」である！

→ (2.)というイメージ

Do you have **any** pens? 「(何本でもいいから)ペン持ってる?」

→数のランダム性を表していて、「ペン何本あるかわからんけど持ってる?」という感じ!

② 肯定文で使う any

Any pen will do. 「どんなペンでもいいよ。」

→「3.」で「4.」となる。

肯定文で使う any は 種類のランダム性を表し、「5.

というイメージになり、後ろには(6.)の名詞がきて、「どんな1つの・1人のへでも」

となる。また、(7.)や(8.)・(9.)とカと相性が良い!

③ some と any の使い分け

☆ some と any のちがいは

some : (10.

$$) \rightarrow \gamma$$

「がつけば some!

any : (12.

$$) \rightarrow 13.$$

「がつけば any!

Do you have some/any questions?

→ 「some」だと「14. 質問ありますか」となり（目の前に質問したい人がいる感じ）

『any』だと『15.』質問 ありますか」となり、どちらでも使える！

Do you have any money with you? 「(少しでも)お金を持てきてる?」

I don't have any books. 「一冊も本を持っていない」

→「16.」で「17.」という「18.」を表す。

↑ (19.) と = になる

<英文法超基礎プリント②⑦> Lv.★★☆☆☆ 対象:中2~

①再帰代名詞

目的語などが文の主語と同じとき、「1. 」 「2. 」の形で
「3. 」という意味を表す代名詞を使う。これを再帰代名詞という。
総称して (4.) という形で表す。

I hurt **myself** with a knife.

「私はナイフで自分自身を傷つけた」
→ 「私はナイフでけがをした」

They cooked the dinner **themselves**.

「彼らは自分たちで夕食を作った」

	単 数	複 数
1人称	(5.)	(6.)
2人称	(7.)	(8.)
3人称	(9.) (10.) (11.)	(12.)

②再帰代名詞を使うイディオム

(13.): 「14. 」 / (15.): 「16. 」 「17. 」
(18.): 「19. 」 (20.): 「21. 」
(22.): 「23. 」

③代名詞の some と any

Some of these CDs are mine. 「これらのCDのうちの何枚かは私のものだ」

Do you know **any** of those boys? 「あの少年たちの何人かを知っていますか」

→ some / any + of + (24.) など + 名詞の形で

「25. 」という意味になる。

④ something や anything など

something は 「26. 」 somebody, someone は 「27. 」を表す!

anything は 「28. 」 anybody, anyone は 「29. 」を表す!

He drank **something**. 「彼は何かを飲んだ」

I don't know **anybody**. 「私はだれも知らない」

something など ~ thing で終わる代名詞に形容詞をつけるときは (30.) につける。

I want **something** hot. 「何か温かいものがほしい」

<英文法超基礎プリント②⑧> Lv.★★☆☆☆ 対象:中1~

① itの用法

itには (1.)語・カタマリを受ける、(2.)・(3.)・(4.)・(5.)・(6.)を表すなどの用法がある。

・ I have a dog. It's very cute. 「犬を飼っています」「それはとてもかわいい」

・ It's nine. 「9時だ」/ It rained yesterday. 「昨日、雨がふった」

・ It's about two kilometers. 「おおよそ2kmです」

・ It's getting dark. 「暗くなってきた」

・ How is it going? 「調子はどうですか」

・ Take it easy. 「気楽にいこうよ」

「7. 」
と訳さない
it!

② oneとは

oneは前に出た (8.)の代わりとして使われる!

I have a bike, but I want a new one.

「私は自転車を持ってるが、新しいの【自転車】がほしい」

→ oneの前に形容詞がある場合は (9.)の形となる。

③ itとoneのちがい

one... (10.)のみを指し、(11.)をつけてもいい!

it... (12.)を指し、(13.)をつけるのはNG!

You have a nice bike.

I want one, too. 「私もほしい」

→ 「あなたが持っているのと (14.)の自転車がほしい!」を表す。

I want it. 「私はそれがほしい」

→ 「あなたが持っている (15.)自転車がほしい!」を表す。

☆ oneは「16. 」 itは「17. 」を指す!!

<英文法超基礎プリント②⑨> Lv.★★★★☆ 対象:中2~

① otherの用法

① Do you have any **other** questions? 「他に何か質問がありますか」

→ (1.)で「2. 」という意味。+基本、うしろには複数名詞がくる

② Please show me some **others**. 「他のものをいくつか見せてください」

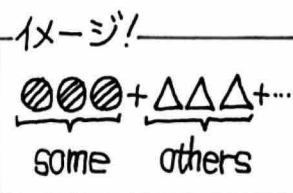
→ theが無いothersは「3. 」の意味で(4.)でも表せる。

Be kind to **others**. 「他人には親切に下さい」

③ Some students like English, and **others** like math.

→ 「Some ~, others...」の形で「5. 」

「6. 」という意味



になり、例文は「英語が好きな生徒もいれば、数学が好きな生徒もいる」となる。

othersは「someの2体目」的なイメージで考える! なので、othersは、例文で言うと、(6.)とも言えることができる。

② anotherの考え方

anotherは「an + other」なので、「いくつかのうちの一つ」+「別・ほか」=「7. 」
という意味になる。基本的に(8.)の形となる。

Tom has two computers, but he is going to buy **another**.
「トムは2台コンピュータを持っているが、彼はもう1台買うつもりだ」



③ anotherの注意すべき用法

① We waited for **another** five hours. 「私たちはもう5時間待った」

→ (9.)で「10. 」 「11. 」を表す!

② They loved **one another**. 「彼らはお互いを愛し合っていた」

→ (12.) [= (13.)] は「14. 」を

意味し、品詞は(15.)である! 動詞や前置詞の(16.)でしか使えない!

We apologized **to each other**. 「私たちはお互いに謝った」

④ A is one thing, and B is another. 「17. 」

⑤ one after another: 「18. 」 ← 名詞ではなく副詞!

The guests came one after another. 「ゲストが次々と来た」

④ the other と the others

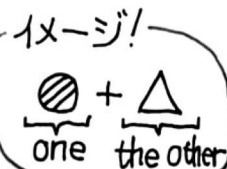
I have two cars. One is white and **the other** is black.

「私は2台車を持っている」「1台は白くて、もう1台は黒い」

→ the other は「19.

」という前提があり、そのうちの1つが

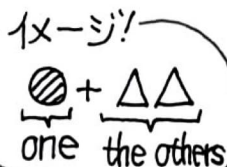
無くなって、「今言ったヤツとは別の[other]、それ[the]しかない(20.)」を表す。



I have three brothers; one is a doctor, and **the others** are teachers.

「私には3人兄弟がいる。1人は医者で、残りの2人は先生である」

→ 3つ・3人以上の場合は、the others を使う。(2グループにする時)



⑤ other・another の用法のまとめ

① 全体が2人・2つ

(21.): 「22. 」

I have two dogs; one is brown and the other is white.

「私は2匹の犬を飼っている。1匹は茶色で、もう1匹は白色だ」

② 全体が3人・3つ

(23.): 「24. 」

I have three cats; one is black, another is white and the other is brown.

③ 全体が3人・3つ以上

(25.): 「26. 」

I have five dogs; one is brown, and the others are black.

④ その他

(27.): 「28. 」

Some children play soccer, and others play baseball.

(29.): 「30. 」

Some students played tennis, and the others played baseball.

「何人かの生徒はテニスをしたが、残りの生徒は野球をした」

<英文法超基礎プリント③⑩> Lv.★★★★☆☆ 対象:中2~

① eachとevery

① **Each** student has a dream. 「生徒**それぞれ**が夢を持っている」
→ (1.)で「2. 」となり、eachは (3.)扱い!

② **Each of the students** has a dream.

→ (4.)で使うとき、ofのあとには (5.)や (6.)などとセットで (7.)がくる、もしくは (8.)などの代名詞がくる。

③ **Every** student has a dream. 「どの生徒にも夢はある」

→ everyは (9.)なので形は常に (10.)となる。
(11.)扱いで訳は「12. 」13. 」となる。

☆ everyとeachのちがい



every



each

everyは (14.)のものについて、全体を考えながら、個々に注目する。

③の例文では、「どの生徒にも」と全体をイメージして、「みんなそれぞれ夢がある」と個をとらえている。

eachは (15.)のものについて、全体は考えず、個々に注目する。

①・②の例文では「生徒ひとりひとり」と個別のものに焦点が当てられている。

② each・everyのその他の重要用法

① weやtheyなどの複数形の名詞と一緒に eachがくると「16. 」の意味になり、複数扱いとなる!

We each have a dream. 「私たちはそれぞれ夢を持っている」

② 「17. 」の意味で、eachが副詞として使われることもある。

These bag cost fifty dollars each. 「これらのカバンはそれぞれ50ドルだ」

③ (18.) : 「19. 」

You should run every two minutes. 「あなたは2分ごとに走るべきだ」

④ (20.) : 「21. 」

I go to the gym every other day. 「私は1日おきにジムに行く」

3 all

「all」は全体をひとまとめにした意味合いで「22.」となる。「every」と意味がほぼ同じだがそのちがいは「個々」に注目して全体を見るのがeveryで、全体しか見ないのが「all」となる。

- ① **All** of us are tired. 「私たちの全員がつかれている」
 ② **All (of)** the information is important. 「すべての情報が大切だ」
 → (23.)の場合は(24.)扱い(①の文)
 (25.)の場合は(26.)扱い(②の文)

- ③ We **all** love her. 「私たちはみんな、彼女を愛している」
They are **all** against our plan. 「彼らはみな、私たちの計画に反対だ」
→ allが(代)名詞と一緒に、「27. 」 「28. 」という意味になる。

4 both

「both」は「29.」という意味で (30.) 扱い。用法は「all」と同じ!

- ① **Both** of my parents are teachers. 「私の両親は2人とも先生だ」
 ② **Both of** us belong to the baseball club. 「僕たちは2人とも野球部に入っている」
 ③ These batteries are **both** dead. 「これらの電池は両方とも切れている」

5 allとbothのポイント

① 語順

- I read **all** [both] (31.). 「本は**全部** [2冊とも] 読んだ」
 - I read **all** [both] (32.). 「本は**全部** [2冊とも] 読んだ」
 - I read **all** [both] (33.). 「本は**全部** [2冊とも] 読んだ」
- all of + 人称代名詞 (usとかthemなど) の場合、(34.) は省略できない!

- ② bothは「(35.)扱い」のみだが、allは(36.)もOK!

<英文法超基礎プリント③> Lv.★★★★☆☆ 対象:中2~

① eitherについて

"either"は (1.) (2.)で
「3. 」を表す。どちらの形も (4.)扱い。

① **Either of** the students has this book. 「生徒のどちらかがこの本を持っている」

② **Either** day is OK. 「どちらの日でも大丈夫だ」

(5.)・(6.)・(7.)など2つでセットになる単語に either が
つくとき「8. 」という意味になる!

③ They are standing on either side of the road. 「彼らは道路の
= (9.) 両側に立っている」

④ **Either Tom or I** have to go to school. 「トムと私のどちらかが
↑ 学校に行かねばならない」
→ (10.)で「11. 」を表し、主語になるとき
は (12.)に動詞を合わせる!

⑤ I **don't** like **either** math or science. 「数学も理科もどちらも好きではない」
→ 否定文のとき、either は (13.)に来て、「14. 」となる。

② neitherについて

"neither"は (15.)の意味で、基本的な用法は either と同じ!

① **Neither of** the jackets looks good on me. 「どちらのジャケットも私には
似合わない」

② **Neither** answer is correct. 「どちらの答えも正しくない」

③ **Neither he nor his wife** comes to the party.
「彼も奥さんもパーティーには来ない」
→ (16.)で「17. 」

④ 「彼は泳げない」「私も泳げない」の書き換えパターン

→ He can't swim. (18.) = (19.)
= He can't swim, (20.) / (21.).

③ none について

"none"は常に代名詞として用いられ、「22.」という意味になる。
neitherが2つのもの・人に使われるのに対し、noneは3つ以上のもの・人に使われる。

None of the students (like) their teacher. 「その生徒の誰も、先生を好きではない」

None of the boxes (are) empty. 「箱はどれも空でない」

→ (23.)は (24.)扱い! ←単数扱いもある...

None of the information (is) important. 「どの情報も重要ではない」

→ (25.)は (26.)扱い!

＜英文法超基礎プリント③＞Lv.★★☆☆☆ 対象:中1・2～

①数量を表す形容詞①

① many/much: 「1. 」 manyは(2.)の前、muchは(3.)の前におく。
否定文・疑問文で使われることが多い。

Do you have **many** friends? 「あなたはたくさんの友達がありますか」

I don't drink **much** milk. 「私は牛乳をあまり飲まない。」

→ 否定の場合、「4.」の意味となる。

※ 次のようなケースは肯定文でも使われる

• **Many** people read this book. 「多くの人がこの本を読んだ」

→ (5.)が(6.)にくるケース。

• I spent so **much** money on my hobbies. 「趣味にたくさんのお金を使った」

→ manyやmuchに (7.)・(8.)・(9.)などの語がつくケース。

☆ Many people ~. の訳し方のコツ

"Many people ~." は「10.」と訳すと自然な訳になりやすい!

② a lot of ~ / lots of ~ / plenty of ~ : 「11.

主に肯定文で、(12.)のどちらにも使われる。

・ He has **a lot of** books. 「彼はたくさん本を持っている」

• It was **a lot of** fun. 「とても楽しかった」

↑「fun」は「楽しみ」という名詞なので、「very」ではなく a lot of 系を使う。

2 数・量を表す形容詞②

③ some : 「13.」 ← ②で詳しくやりました!!

Some students don't study English. 「一部の生徒は英語を勉強していない」

I drank **some** milk. 「私は(少量の)牛乳を飲んだ」

②⑥でもやっています!

any: 疑問文で「14.

」、否定文で「5.

Do you have **any** brothers or sisters? 「何人かの兄弟や姉妹がいますか」

I didn't drink **any** milk. 「私は牛乳を全~~く~~飲まなかった。」

③ 数・量を表す形容詞③

- ④ a few / a little : 「16. 」 a few は (17.) に、a little は (18.) に
I have **a few** friends. 「私には少しの友だちがいる」 使われる!
He drank **a little** water. 「彼は少し水を飲んだ」

few / little : 「19. 」

Few students passed the exam. 「ほとんどの生徒がその試験に受からなかった」

I have **little** money. 「私はほとんどお金を持っていない」

- ⑤ no : 「20. 」 = (21.)

No students came to school. 「1人の生徒も学校に来なかった」

I have **no** money now. 「私はいまぜんぜんお金を持っていない」

<英文法超基礎プリント③> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中1・2~

① 副詞の文中での基本的な位置 副詞が?な人は⑦へ!!

① 形容詞・他の副詞を修飾するとき→(1.)に置く。

- He is studying English very hard. 「彼はとても一生懸命英語を勉強している」
(副)
- The bag is very large. 「そのカバンはとても大きい」
(形)

☆ 副詞の enough のポイント

副詞の enough 「2. 」は形容詞・副詞の(3.)に置く!

This hall is big enough. 「このホールは十分に広い」

② 動詞を修飾するとき→副詞の種類によって異なる。

A. 様態「どのように」を表す副詞: 動詞の(4.)や、(5.)に置く。

He ran slowly in the park. 「彼は公園でゆっくりと走った」

He opens the door quietly. 「彼は静かにドアを開ける」
クワイートリ

<様態の副詞の例> fluently: 流ちょうに / フルーエントリ carefully: 注意深く, など ケアフルリ

B. 頻度・否定を表す副詞: 一般動詞の(6.), be動詞の(7.)に置く。

I always get up at five. 「いつも5時に起きる」
オールウェイズ

He is often late for school. 「彼は学校によく遅刻する」
オフン

I seldom go to the library. 「私はめったに図書館に行かない」
セルドム

<否定・頻度を表す副詞>

always: 「8. 」 / usually: 「9. 」 / often: 「10. 」 「11. 」
オールウェイズ ユースually オフン

sometimes: 「12. 」 / never: 「13. 」
サムタイムズ

hardly [scarcely]: 「14. 」 / seldom [rarely]: 「15. 」
ハードリー スケアスリー セルドム レアリー

C. 文全体を修飾するとき: (16.)に置かれることが多い。

Clearly he didn't understand her. 「明らかに彼は彼女のことを理解していなかった」

He will probably come. 「彼はおそらく来るだろう」

<文修飾の副詞の例> unfortunately: 不運にも / possibly: ひょっとすると など
アンフォーチュネイトリ

② 副詞の only, even

only 「17. 」, even 「18. 」は名詞を修飾することもある。

- **Only** (Tom) came on time. 「トムだけが時間通りに来た」
- She ate **only** (salad) = She **only** (ate) salad. 「彼女はサラダだけを食べた」
(= サラダしか食べなかった)
- **Even** (a child) knows that. 「子どもですえそんなことは知っている」

③ very と much について

- very は (19.)・(20.)の原級、tired, interesting など、を修飾する。

This book is **very** ^形nice. 「この本はとても良い」

He swims **very** ^動fast. 「彼はとても速く泳ぐ」

I'm **very** tired. 「非常に疲れた」

- much は形容詞・副詞の比較級、最上級、(21.)、受動態の過去分詞を修飾する。

I don't ^動like cheese **much**. 「私はチーズがあまり好きではない」

☆ much が単独で動詞を修飾するのは否定文・疑問文のときで、肯定文のときは (22.)の形になる。もしくは so much.

I enjoyed the party **very much**. 「私はそのパーティーをとても楽しんだ」

Thank you **so much**. 「たいへんありがとうございます」

④ 副詞→形容詞の書きかえ

She plays the piano very well.

= She is a very good pianist. 「彼女はピアノがとても上手だ」

動詞「～する」を名詞 (23.) で表し、副詞を (24.) で表すようにする!

⑤ 形容詞と副詞の形

- 形容詞と副詞の形が同じもの → fast 「25. 」, early 「26. 」...

- 形容詞に 「27. 」をつけると副詞になるもの

slow 「遅い」 → slowly 「遅く」 / easy 「簡単な」 → easily 「簡単に」 など

<英文法超基礎プリント③> Lv.★★★★☆ 対象:中1~

① 疑問詞を使った疑問文

「何?」「いつ?」など具体的な内容を聞きたい時に使うのが疑問詞!

[疑問詞の種類] 大きく分けて2タイプ!

① 名詞・形容詞の働きができる疑問詞

(1.) : 「2. 」 (3.) : 「4. 」

(5.) : 「6. 」 (7.) : 「8. 」

② 副詞の働きができる疑問詞

(9.) : 「10. 」 (11.) : 「12. 」

(13.) : 「14. 」 (15.) : 「16. 」

② 疑問詞を使った疑問文の作り方

(1) 疑問詞が主語の場合 ← タイプ①の疑問詞

→ (17.)を疑問詞に変えて文末に?をつけるだけ!

Tom wrote this book. 「トムがこの本を書いた」

↓
Who wrote this book? 「誰がこの本を書きましたか」

(2) 疑問詞が主語以外の場合

→ (18.)ところを疑問詞にして (19.)に置き、(20.)の形にする!

Your school begins at 9:00.
s v 時

「あなたの学校は9時に始まる」

When does your school begin? 「あなたの学校はいつ始まりますか」
疑問文の形

That hat is mine.
s v 誰の

「あの帽子は私のです」

Whose is that hat?
疑問文の形

「あの帽子は誰のものですか」

<英文法超基礎プリント③⑤> Lv.★★★★☆☆ 対象:中1-2~

① 疑問代名詞

「何」「だれ」のように代名詞の働きをする疑問詞を疑問代名詞といい、

(1.) (2.) (3.) が 名詞の働きをする!

↳ パッと言えない人は⑤へ

重要 (4.)

)な文となる! = 名詞が欠けた形!

② 人についてたずねる場合

① **Who** went shopping with you? 「誰があなたと買い物に行ったの?」

→ whoが(5.)の働きをしていて、後ろが(6.)から始まる不完全な文に!

② **Who** is that boy? 「あの少年は誰ですか」

→ whoが(7.)の働きをしていて、「that boy is ○」の形となっている。

③ **Who** did you give the book? 「あなたは誰にその本をあげましたか」

→ whoが(8.)の働きをしていて、「~ you give ○ the book?」の形。

※ whoが目的語として働く場合、本来は(9.)が使われる。

④ **Who** did you go with? 「あなたは誰と行ったのですか」

→ whoが(10.)の働きをしているので「with ○」の形になっている。

※ これも「(11.) did you go?」と言えるが、あまり使われない。

③ 人以外についてたずねる場合

① **What** happened yesterday? 「昨日、何が起きたのか」

→ whatが(12.)の働きをしている!

② **What** is that? 「あれは何ですか」→ whatが(13.)の働きをしている!

③ **What** do you want? 「あなたは何がほしいのですか」

→ whatが(14.)の働きをしているので、「want ○」の形になっている。

④ **What** are you interested in? 「あなたは何に興味がありますか」

→ whatが(15.)の働きをしているので「~ in ○」となっている。

④「どちらが」とたずねる場合

① **Which** is your bag? 「どちらがあなたのカバンですか」

② **Which** of these boys do you like? 「この男の子たちのうちでどの子が好き?」

→「〇〇の中でどれが?」と聞くときに **which** を使う。人にも人以外にも使える!

⑤「誰のもの」とたずねる場合

Whose is this umbrella? 「このカサは誰のものですか」

→「16. 」とたずねるときは **whose** を使う。

<英文法超基礎プリント③⑥> Lv.★★★★☆☆ 対象:中1・2~

1 疑問形容詞とは

(1.)・(2.)・(3.)が形容詞的に使われて、
<4. >の形で「5. 」
の意味を表すのが、**疑問形容詞**!

2 疑問形容詞の形

① **What sport(s)** do you like? 「どんなスポーツが好きですか」

② **Which book** did you read? 「どの本を読みましたか」

③ **Whose pen** is this? 「これは誰のペンですか」

☆ 疑問代名詞の考え方とほぼ同じで、

(6.) と ④ がセットになるだけ!

3 疑問副詞について

疑問副詞には (7.)・(8.)・(9.)・(10.) の4つがあり、それぞれ「11. 」が基本的な意味である。

→ 後ろは完全文!

4 場所をたずねる場合

① **Where** did he go? 「彼はどこへ行ったのですか」 ← 行き先をたずねる

② **Where** do you live? 「どこに住んでいるのですか」 ← 住所をたずねる

③ **Where** are you from? 「ご出身はどこですか」

→ where が代名詞として (12.) になることもある。

5 時をたずねる場合

When did he meet her? 「彼はいつ彼女に会いましたか」

→ もっと詳しく「何日?」「何時?」などを聞きたいときは (13.) も使う。

What time is it now? 「今、何時ですか」

What's the date today? 「今日は何月何日ですか」

What day is it today? 「今日は何曜日ですか」

What is
→ What's

⑥理由をたずねる場合

Why do you live in Tokyo? 「なぜ東京に住んでいるのですか」

— (14.) I attend college in Tokyo. 「東京の大学に通っているからだ」

= (15.) college in Tokyo. ←不定詞についてはまたやります!

⑦howの用法

① **How** do you go to school? 「どうやって学校に行ってるの?」

— By bike. 「自転車で」 ←方法をたずねる! 後は(16.)!

② **How** do you feel? I'm fine. 「気分はどう?」— 「いいですよ」

→ 「how + 形容詞がない不完全な文」で様子をたずねる。

→ how は (17.) や (18.) とセットになって、様々な意味を表す。

③ (19.) : 「20. 」

• (21.) : 何歳? **How old** are you? 「あなたは何歳ですか」

• (22.) : 身長ナボ? **How tall** is he? 「彼の身長はどのくらい?」

• (23.) : 距離 **How far** is it from here to the station?

→ 距離は (24.) を S にする! 「ここから駅までどれくらいありますか」

• (25.) : 期間 **How long** will it take to arrive there?

It takes (26.) 時間 to V ~ 「そこに到着するのにどれくらいかかりますか」

「26. 」

• (27.) : 「28. 」

• (29.) : 「30. 」

How soon will the game start? 「あとどれくらいで試合が始まりますか」

• (31.) : 頻度 **How often**

How often do you study English? 「英語をどのくらい(の頻度で)

• (32.) : 回数 勉強の回数

How many times have you been to Osaka? 「大阪へ何回行ったことがありますか」

• (33.) : 数 / (34.) : 量

<英文法超基礎プリント③⑦> Lv.★★☆☆☆ 対象:中2-3

1 否定疑問文

「～しないのですか?」「～ではないのですか?」と否定の意味を含む疑問文を否定疑問文という。形は普通の疑問文に「not」を入れるだけ!

- ・ Isn't he a teacher? 「彼は先生ではないのですか」
 — Yes, he is 「はい、先生です」 / No, he isn't. 「はい、先生ではないです」
 → 答え方が、日本語と Yes/No が逆になるので要注意!
 答えの中身が肯定 → (1.) 否定 → (2.) となる!

- ・ Didn't you go to school yesterday? 「昨日学校に行かなかったの?」
 — Yes, I did. 「はい、行ったよ」 / No, I didn't. 「はい、行かなかったよ」
 ↑ 肯定 ↑ 否定

2 選択疑問文

ふつうの疑問文のあとに (3.) をつけると、(4.) といような2つのうちのどちらなのかをたずねる文になる。答えるときは Yes/No を使わない。

Do you like [↑]dogs or [↓]cats? — I like dogs.

Is she a [↑]singer or an [↓]actress? — She's a singer. actress: 女優

(5.) を使って、表すこともある!

Which do you want, tea or coffee? — Tea, please.

「紅茶とコーヒーでは、どちらがほしいですか」 — 「紅茶がほしいです」

3 付加疑問文

平叙文「～です」「～でない」の文に、「6. 」と「念を押す」ときや「同意を求める」ときに文末に付け加える疑問文を付加疑問文という。

☆付加疑問文の作り方

A. 肯定文 + (7.) (短縮形を使う)

You are a student, (8.)? 「あなたは学生ですね」

Tom speaks Japanese, (9.)? 「トムは日本語を話すね」

B. 否定文 + (10.)

Mary didn't come, (11.)? 「メアリーは来ませんでしたよね」

④ その他の付加疑問文のポイント

Kumi can speak English, (12.

)? — Yes, she can.

「クミは英語を話せますよね。」— 「はい、話せます」

I'm right, (13.

)? 「私は正しいですね」←「am I not?」とはあまり言わない

⑤ 命令文

相手に対して「14. 」15. 」と命令したり依頼したりする文の
ことを命令文という。命令文は (16.)から文を始める!

① 肯定の命令文: (17.)で始める。

・ Be quiet in this room. 「この部屋では静かにしなさい」

・ Listen to this music. 「この音楽を聞いて」

② 否定の命令文: (18.)

・ Don't go there alone. 「1人でそこへ行くな」

= You (19.) (20.) go there alone.

・ 命令文の文頭や文末に (21.)をつけたり、終わりに (22.)を
つけ加えると、「～してください」「～してくれませんか」と依頼の意味になる。

・ Please open the window. [Open the window, please] 「窓を開けて下さい」

・ Sit down here, will you? 「ここに座ってくれませんか」

・ 命令文の終わりに (23.)をつけ加えると、「～しませんか」と
勧誘の意味を表す。

・ Play tennis together, won't you? 「一緒にテニスを楽しませんか」

⑥ Let's ~ の文

(24.)で「25. 」と勧誘の意味を表す。否定文
の場合は (26.)の形になる。また、終わりに (27.)をつけ加える
こともある。

・ Let's play tennis. 「テニスをしましょう」

— Yes, let's. / No, let's not. 「そうしましょう」/ 「いや、やめておきましょう」

・ Let's not go out today. 「今日は出かけるのはやめよう」

・ Let's dance, shall we? 「ダンスを楽しませんか」

<英文法超基礎プリント③⑧> Lv.★★☆☆☆ 対象:中2・3~

① いろいろな否定文

① 部分否定と全体否定

notのあとに (1.)や (2.), (3.)などがくると、

「4. 」という全体の一部分を否定する部分否定となる。それに対し、全体を否定するものを全体否定という。

I don't always eat out every night. 「いつも毎晩外食しているわけではない」

I didn't like all of the books. 「すべての本が好きだったわけではない」

None of the boxes are empty. 「箱はどれも空でない」←③①でやった!

② no系 ← 全体否定を表す

- ③②
I have no money now. 「今、全然お金を持っていない」
No students came to the party. 「どの生徒もパーティーに来なかった」
I don't have any brothers or sisters. 「私には兄弟も姉妹も1人もいない」
not ~ any = (5.)

I know nothing about it. 「私はそのことについて何も知らない」

No one [Nobody] knows it. 「誰もそれを知らない」

→ nothing 「6. 」や no one, nobody 「7. 」でも否定を表す文をつくることができる。

② there構文

(8.)の形で「9. 」を表せる!

→ 文頭のthereは「今から何かがいるよ・あるよ」を言う (10.)を表すサイン!

→ 主語に (11.)や (12.)がつくことがほとんど!

There is an apple on the table. 「机の上にリンゴがある」

There are some balls in the box. 「箱の中に何個かボールがある」

Is there an apple on the table? — Yes, there is.

Are there any balls in the box. — No, there aren't.

③ there構文のポイント

「there is [are] ~」の there は、今から「13.」が
来るよー、というサインで、特に意味を持たない。

主語には13がくるので、聞き手が知っていることを示す語である(14.)、
(15.)、(16.)などは、普通つかない。

(△) There was the book on your desk. 「その本はあなたの机の上にあつた」

(○) The book was on your desk.

④ 感嘆文

感嘆文とは「17.

」と驚きや感動を表す文のこと。

「18.」で始めるモノと「19.」で始めるモノの2つの形式があり、文末に"!"をつける!

・ **What a cold day** it is today! 「今日はなんて寒い日なのだろう」
→ (20.)の形!

名詞の(21.)や(22.)のときは「a/an」はつかない。

What nice pictures you have! 「あなたはなんて素敵な写真を持っている
のでしょう」

What nice weather it is! 「何ていい天気でしょう」

・ **How cold** it is today! 「今日はなんて寒いのでしょうか」
→ (23.)の形!

How fast he runs! 「彼は何て速く走るのでしょうか」

※話し言葉ではよく(24.)が省略される。

What a beautiful day! 「なんて美しい日だろう」

How nice! 「なんてすてきなんだ」

<英文法超基礎プリント③⑨>Lv.★☆☆☆☆ 対象: 中1-2

① 5つの文型

英語の文を作るのは主語[1.]・動詞[2.]・目的語[3.]・補語[4.]という文の要素である。全部で5パターンのみ!

② 主語と述語動詞

英文は、基本的に(5.)「誰が」「何が」で始まり、(6.)「〜する」[述語動詞]の順番! (←①)

I run. 「私は走る」 He walks. 「彼は歩く」

③ 修飾語について

修飾語[7.]は名詞や動詞などについて、それらの語を詳しく説明する働き。修飾語になるものは(8.)と(9.)の2つ!

This is a nice car. 「これは素敵な車だ」← 形容詞(㊸)を修飾

He works hard. 「彼は一生懸命働く」← 副詞(㊹)を修飾

形容詞は(10.)を修飾し、副詞は(11.)を修飾する! (←⑦)

④ 修飾語の考え方

MはSやOのように文のパターンを構成する主要素に(12.)!
→ 文法的には、あってもなくてもいいモノ!

↓
Mを(13.)!
⚡ 形容詞のかたまりは[]でくります!

I run (in the park)(every day). 「私は(毎日)(公園で)走る」

The girl [on the stage] is dancing. 「[舞台の上の]女の子は踊っている」

☆前置詞の考え方

⚡ このかたまりのことを前置詞句という

inやofなどの前置詞は(14.)になってMになる!

→ (8.)として働く or (9.)として働く

・「SV + (15.) + (16.)」の順番!

5 第1文型

I slept (well) (last night). 「昨夜はよく眠った」
 S V M M

He lives (in Osaka.) 「彼は大阪に住んでいる」
 S V M

There is an apple on the table. 「机の上にリンゴがある」
 V S

SとVでできている文を第1文型 [17. SV] といい、「SはVする」という意味を表す。実際はいろいろな (18.) を伴うことが多い。

★SVの基本的な意味

第1文型 [SV] は「19. 」という意味!

He got (there) (in the morning).
 S V M M

「彼はそこに午前中に移動した」→「彼は午前中にそこに着いた」

6 自動詞と他動詞

②で動詞には、「20. 」^{←Oといいます!!}「21. 」という目的語が必要な (22.)
 と O が必要でない (23.) の2種類があると述べた。(覚えてた?)

Our school starts (at 9:00). 「私たちの学校は9時に始まる」
 S V
 ↑後ろに前置詞のカタマリが来てるので「starts」は23!

She started study. 「彼女は勉強を始めた」
 S V O
 ↑後ろに「study: 勉強」というOが来てるので「started」は22!

★覚えておくべき自動詞! (前置詞とセットで!)

(24.)	: 「25. 」	/ (26.)	: 「27. 」
(28.)	: 「29. 」	/ (30.)	: 「31. 」
(32.)	: (33.)	: 「34. 」	
(35.)	: 「36. 」		

<英文法超基礎プリント④⑤> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中1-2~

① 第2文型 SVC

He is a singer. 「彼は歌手だ」

上の文では is (be動詞) のあとに「a singer」がきて、「1. なっている。このように、主語の中身を表していることばを (2.) [3.] といふ。」と

② Cになれるヤツ

- Cに来ることばは、意味の上で (4.) になる。
 → Sには必ず (5.) がくるので、それと意味の上でイコールになるCには (6.) が来る。(⑤を参照!)
 (7.) も Cになれる! (⑦を参照!)
 → 7は (8.) することば。例えば、「犬」という名詞に「白い犬」「かわいい犬」「私が飼っている犬」などのことばはすべて (7.) の働き!

Q. なぜ7もCになれるのか? ← 主語になる名詞と品詞がちがうのに...
 修飾は「9. 」関係とも言えるから! 例えばさっきの「白い犬」を考えると、「犬=白い」とも考えることができる。

I am ^形 happy. 「私は幸せだ」 The hotel was ^形 nice. 「そのホテルは良かった」
 S C S C

③ 後ろにCをとる動詞

① 「~である」

(10.) + 形・名 I am a student.

② 「~のままである」

(11.)・(12.)・(13.) + 形 He kept quiet.
 彼は黙ったままだった。

③ 「~になる」

(14.) + 形・名 / (15.)・(16.)・(17.) + 形

④ 外見・様子系

look + 形 「18. ~に見える」/ sound + 形 「19. ~」

③ つづき

④ 外見・様子系

seem [appear] + 形・名 「20.

⑤ 感覚系

smell + 形 「21.

taste + 形 「22.

feel + 形 「23.

「24.

④ 第3文型 SVO

I play baseball. 「私は野球をする」

I play. だけだと「何を」するのかがわからない。なので「何を」表すモノが必要となる。それを (25.) [26.] という。

☆ OになるのはSと同様、(27.)のみ! Cに名詞が来たときの
見分け方は、(28.)かとうかである。

He became a doctor.

「彼は医者になった」



「He = a doctor」と言えるので

「a doctor」は C

(イ-ジ) S ← V → C

He visited a doctor.

「彼は医者を訪れた」



「He ≠ a doctor」なので

「a doctor」は O

(イ-ジ) S V → O

☆ 動詞によって後ろに何がくるのかが決まるので、意味だけでなく
その働きも覚えることが重要!

⑤ 第1～3文型までのまとめ

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{live}}{V} \quad (\text{in Osaka}) \xrightarrow{M} SV$ 「私は大阪に住んでいる」
↳ 後ろに O を必要としない V を (29.) という。

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{am}}{V} \quad \frac{\text{a teacher}}{C} \rightarrow S=C$ 「私は教師だ」
↳ 後ろに C が必要な V を (30.) という。

$\frac{I}{S} \quad \frac{\text{teach}}{V} \quad \frac{\text{math.}}{O} \rightarrow S \neq O$ 「私は数学を教えている」
↳ 後ろに O が必要な V を (31.) という。

<超英文法基礎プリント④> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中2~

① 第4文型 SVOO

I teach English. (SVO)
「私は英語を教えている」

I teach him English. (SVOO)
「私は彼に英語を教えている」

teachという他動詞には単純にSVOを作る場合と、SVOOを作る場合がある。
SVOOをSVO₁O₂と考え、「1.」を表すO₁を間接目的語といい、「2.」を表すO₂を直接目的語という。

② SVOOのニュアンス

第4文型SVOOは「3.」というニュアンスを持つ! なので元々3のイメージを持ってる動詞と相性がピッタリ! 以下の動詞を見たらSVOOで使うことをまずは考える!

(4.): 「与える」 I gave her a bag. 「私は彼女にカバンをあげた」

(5.): 「貸す」 He lent me this book. 「彼は私にこの本を貸してくれた」

(6.): 「伝える」 He told me the truth. 「彼は私に真実を話してくれた」

(7.): 「見せる」 I showed him my picture. 「私は彼に写真を見せた」

(8.): 「送る」 She sent him a letter. 「彼女は彼に手紙を送った」

(9.): 「質問する」 May I ask you some questions?
「少し質問していいですか」

(10.): 「教える」 He teaches us English. 「彼は私たちに英語を教えている」

(11.): 「持ってくる」 Bring me the bag. 「私のところにカバンを持ってきて」

上の動詞は「あげる」「渡す」ニュアンスを持ち、(12.)と呼ばれる。

③ SVOOにもなれるV

(13.): 「作る」 I made her a dress. 「私は彼女にドレスを作った」

(14.): 「買う」 He bought her a bag. 「彼は彼女にカバンを買ってあげた」

(15.): 「料理する」 I cooked them lunch. 「私は彼らに昼食を作った」

④ SVOOからSVOへの書き換え

SVO₁O₂の文は(16.)や(17.)を使ってSVOに書き換えることができる!

He gave her a bag. → He gave a bag to her.
「彼は彼女にバッグをあげた」

I bought her a bag. → I bought a bag for her
「私は彼女にバッグを買ってあげた」

書き換えられた文は「SVO+M [=前置詞+名詞]」となるが、重要なのは
どういうときにtoを使って、どういうときにforを使うのが、です!

⑤ toとforの使い分け

forはもともと「18. 」という意味があり、「before: ~の前に」とか「forward: 前方へ」と
いったことばにもその原型が残ってる。そこから、「前を見つめる」= (19.)という意味
が派生して、forは「20. 」という記が出てくる。

→「21. 」という代理・交換の意味も生まれる! ←「~のためにしてあげる」から

I bought the car for 10,000 dollars. 「私は1万ドルでその車を買った」
↑ 1万ドルと引き換えに車というイメージ

☆ toではなくforを使うのは...

①「22. 」イメージが無い動詞のとき

②「23. 」イメージがあるとき

forを使う代表的な動詞

(24.)・(25.)

(26.)

I bought him a bike. → I bought a bike for him.

①「買ってる」だけで誰かにあげていない & ②彼の自転車なのに「私が代わりに」買ってあげる

She cooked him dinner. → She cooked dinner for him.

①「料理した」だけで誰かにあげていない & ②彼が食べる夕食なのに「彼女が代わりに」作ってあげる

⑥ SVOO→SVOへの書き換えのポイント

・O₂の部分に(27.)や(28.)は置けない!

(X) I gave you it. → (O) I gave it to you.
O₁ O₂

・「ask」の場合、toでもforでもなく(29.)を使う!

May I ask you a favor? → May I ask a favor of you?
「ひとつお願いがあるのですが」

<英文法超基礎プリント④②> Lv.★★★★☆ 対象: 中2-3~

① SVOC

We called him John. 「私たちは彼をジョンと呼んだ」

SVだけで完結できる(1.), Cを必要としSVCをとるVを(2.)
SVOをとるVを(3.), SVOOをとるVを(4.)といいます。(39~41)

今回はOとCを必要とするVである(5.)が主役です! SVOCの
場合、(6.)という関係になり、このような補語を(7.)という。

② SVOCを作る動詞①

(8.): 「9.

」 They call her Mary.^㊸
「彼らは彼女をメアリーと呼ぶ」

(10.): 「11.

」 I named the dog Ren.^㊹
「私はその犬をレンと名づけた」

(12.): 「13.

」 They made him angry.^㊺
「彼らは彼を怒らせた」

(14.): 「15.

」 Keep the room warm.^㊻
「部屋を暖かくしておいて」

(16.): 「17.

」 I left the door open.^㊼
「私はドアを開けたままにしておいた」

(18.): 「19.

」 I found the movie interesting.
「私はその映画が面白いと感じた」

③ SVOCを作る動詞②

[1] 使役構文

「Sが人に何かをさせる」という構文で、主に (20.)・(21.)・(22.)
という動詞を使う。

I made him go to the station. 「私は彼を駅へ行かせた」

I had him carry my bag. 「私は彼にカバンを運んでもらった」

I let him sing a song. 「私は彼に歌を歌わせてあげた」

☆使役構文の基本形

(23.)	:	「24. 」
(25.)	:	「26. 」
(27.)	:	「28. 」

[2] 知覚構文

知覚動詞とは、「何か入ってきた情報に、気づく」というニュアンスの動詞。
主に (29.)・(30.)・(31.)などの動詞を使う。

I saw him enter the room. 「私は彼が部屋に入るのを見た」

I heard him sing a song. 「私は彼が歌を歌っているのを聞いた」

I felt him touch my hand. 「私は彼が手にふれるのを感じた」

☆知覚構文の基本形

see	}	O	{	(32.)	}	「33. 」
hear						「34. 」
feel						「35. 」

④ SVOCの訳し方テク

The news made me sad. 「そのニュースは私を悲しませた」

上の文の「The news」のような人が主語じゃない [= 36.] とき
「37. 」と訳すと自然な訳になる！

The news made me sad. 「そのニュースによって私は悲しんだ」
原因 → 結果 となる！

<英文法超基礎プリント④> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中2~

① 比較級

AとBを比べて、一方が他方よりも上なのか、下なのかをハッキリさせる表現を
(1.)といい、(2.)が基本的な形となる!

I am tall. 「私は背が高い」 / He is tall. 「彼は背が高い」
→ I am taller than he is tall. 「私は彼より背が高い」

↓
I am taller than he ^②(is) ^①tall.

① ダブる形・副は(3.)!

② 2回目の(4.)は省略してもよい!

「than」は「5. 」
を表し、後ろにはSVが
くる。

I can swim fast. / Tom can swim fast.

→ I can swim faster than Tom. ← ① fastはダブるから省略

② can swimも同じVなので省略

※ くだけた表現だと、thanの後ろは(6.)になる。

He is younger than me. 「彼は私より若い」

② 比較級の作り方

① 原級[もとのままの形]にそのまま(7.)をつける。

tall → taller high → higher old → older young → younger

② 語尾が(8.)であれば、(9.)をつける。

large → larger wide → wider

③ 短母音 + 子音字1つで終わる語は子音字を重ねて(10.)をつける。

big → (11.) hot → (12.)

④ (13.)で終わる語は、yを(14.)にする。

early → (15.) happy → (16.) busy → (17.)

⑤ 長い系[2,3音節以上]の語、語尾が(18.)で終わる語は、(19.)をつける。

in·ter·est·ing ← 4音節
interesting → (20.)

slowly → (21.)

↑ earlyは例外!

③ 不規則変化の比較級

good ④「良い」 well ④「健康で」 ⑤「上手に」→ (22.)

bad ④「悪い」 badly ⑤「ひどく」 ill ④「病気の」 ⑤「悪く」→ (23.)

many ④「多くの」 ⑤「多くのこと」→ (24.)

much ④「多量の」 ⑤「多量」 ⑥「多く」→ (25.)

little ④「少しの」 ⑥「少し」→ (26.)

I have more books than him. 「私は彼より本を多く持っている」

④ 注意すべき比較級の用法

他にも yet・still・a lot がある

① 比較級を強調する時は比較級の**前に** (27.)をつける!

It will be **even** hotter tomorrow. 「明日はさらにもっと暑くなるだろう」

逆に「少し」と差が小さいことを表す場合は (28.)・(29.)を使う。

Tom is a little taller than Mike. 「トムはマイクより少し背が高い」

※数の多さを強調する時は (30.)で表す!

I have **many more** books than you do. 「あなたよりももっとたくさんの本を
持っている」

② 程度の差を表したい時は、比較級の**前に** (31.)を表す語句を置く。

I am three years older than he. 「私は彼より3歳年上だ」

= I am older than he (32.) three years.

③ 「AよりBの方が好き」と言う時は、(33.)を使う。

I like dogs **better** than cats. 「私はネコより犬の方が好きだ」

④ 2つのものを比べて「どちらがより〜か」と聞くときは (34.)で

表す。人の場合は (35.)で表す。

Which do you like better, dogs or cats? 「ネコと犬、どちらが好きですか」

⑤ 比較の構造

☆ thanの後ろはダブらない部分だけ残し、(36.)!

thanの前とダブるところは (37.)・(38.)で省略!

She is better at tennis than he (is). 「彼女は彼よりテニスが得意だ」

<英文法超基礎プリント④④>Lv.★★★★☆ 対象:中2~

①最上級

「AはBの中で一番〜だ」を表現するときに使うのが(1.)!
→(2.)・(3.)が基本的な形となる。

最上級の比較の範囲[〜の中で]の表し方は...

(4.)・(5.)→(6.)を使う!
上以外 →(7.)を使う!

Tom is **the tallest** in my family. 「トムは家族の中でいちばん背が高い」
He runs **(the) fastest** of the five. 「彼は5人の中でいちばん速く走る」

②最上級の作り方←比較級と同じ!

①原級にそのまま(8.)をつける。

tall → tallest high → highest old → oldest young → youngest

②語尾が(9.)であれば、(10.)をつける。 large → largest

③短母音+子音字1つで終わる語は子音字を重ねて(11.)をつける。

hot → hottest biggest

④(12.)で終わる語は、yを(13.)にする。

easy → easiest early → earliest busy → busiest

⑤長い系の語、語尾が(14.)で終わる語は、(15.)をつける。

difficult → most difficult quickly → most quickly

③不規則変化の最上級

good (形)「よい」、well (形)「健康で」(副)よく → (16.)

bad (形)「悪い」、badly (副)「ひどく」、ill (形)「病気の」(副)「悪く」→ (17.)

many (形)「多くの」(名)「多くのこと」→ (18.)

much (形)「多量の」(名)「多量」(副)「多く」→ (19.)

little (形)「少しの」(副)「少し」→ (20.)

④ 最上級を強める語句

比較級を強める場合は...? (忘れた人は④へ!)

最上級の前に (21.) を置くことで最上級を強めて、「22. 」と訳せる!

He is **by far** the best singer in his class.
「彼はクラスですばぬけて歌がうまい」

⑤ 最上級の頻出用法

① (23.) で「24. 」を表す!

That is **one of the tallest** buildings in Japan.
「あれは日本で一番高いビルの1つだ」

② (25.) : 「26. 」 ※序数: first, second...
Los Angeles is **the second largest** city in the United States.
「ロサンゼルスはアメリカ合衆国で2番目に大きな都市だ」

③ (27.) : 「28. 」 ← 3つ以上のモノの中で
Which is the easiest question of the three?
「3つの中で、どれが一番簡単な問題ですか」

(29.) : 「30. 」 ← 不特定多数の中で
What is the most popular sport in Japan?
「日本で一番人気のあるスポーツは何ですか」

※補講 ~なぜ副詞の最上級には the をつけなくてもいいの? ~

a とか the とかの冠詞は (31.) に付くので、それを修飾しない副詞には the は付かないってこと!
形容詞でも the がいない時がある...

→ 最上級の後ろに (32.) されていたら、the が必要!!

(1) この湖は日本で一番深い

This lake is (なし or the) **deepest** in Japan.

→ 「この湖は日本で一番深い(湖だ)」と「lake」が省略されているので the が必要!

(2) この湖はこの地点が一番深い This lake is (なし or the) **deepest** at this point

→ 「この湖はこの地点が一番深い(湖だ)」とはならないので the はいらない!

<英文法超基礎プリント④⑤> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2~

①「同じくらい」を表すには

AとBを比べて両者が「同じくらい」と表現するのに (1.) + 形容詞・副詞の (2.) を使う!

He is good at baseball. 「彼は野球が得意だ」

He is **as** good at baseball. 「彼は同じくらい野球が得意だ」
 ↑ 副詞で (3.) を表す? ↑ 誰と?

He is **as** good at baseball **as** Ken is.
 「彼はケンと同じくらい野球が得意だ」 接続詞で「~のように」を表す!

- Tom is **as** tall **as** he is. 「トムは彼と同じくらいの背の高さだ」
- Tom is **as** old **as** he is. 「トムは彼と同年齢だ」
 → 「同じくらい背が高い」「同じくらい年をとっている」としない!

② not as ~ as は要注意!

- 「A ~ not as OO as B」で「4. 」となる!
 Ken is not as tall as Tom. 「ケンはトムほど背が高くない」
 → 「ケンはトムと同じくらい背が高くない」はNG!

- 最初の as は (5.) にも言い換えることができる! (as を使うのがほとんど)
 I can't run so fast as him. 「私は彼ほど速く走れない」
 ↑ くだけた表現では目的格も使われる

③ 倍数表現

「as 原級 as」の前に (6.) を置くことで、「7. 」を表すことができる。

I have **twice** as many books as he (has). 「私は彼の2倍本を持っている」

★主な倍数表現——— 3倍以降は「~ times」———

2倍: (8.) 3倍: (9.) 4倍: (10.)

半分[2分の1倍]: (11.) $\frac{1}{3}$ 倍: (12.)

$\frac{1}{4}$ 倍: (13.) $\frac{2}{3}$ 倍: (14.)

④ as ~ as を使った重要表現

① (15.) = (16.): 「17. 」

I ran as fast as possible = I ^(加形) ran as fast as I could.
「私はできるだけ速く走った」

② (18.): 「19. 」

He read as many as 100 books. 「私は100冊もの本を読んだ」

③ (20.): 「21. 」

He paid as much as 100,000 yen for that bag.
「彼はそのバッグに10万円も払った」

④ (22.): 「23. 」

I studied as hard as anyone in my class.
「私はクラスのだれにも負けないほど一生懸命勉強した」

⑤ (24.): 「25. 」

My car is as good as new. 「私の車は新車同然だ」

⑤ 比較級・最上級を使った重要表現

① (26.): 「27. 」

It is getting darker and darker. 「ますます暗くなっている」

The girl became more and more beautiful. 「その女の子はますます
↑ 「more」を使うときは、<more and more 原級>に 美しくなった」

② (28.): 「29. 」

More than one hundred people came to the party.

「100人以上の人がそのパーティーに来た」 A is more than 100

↳ A > 100

③ (30.): 「31. 」

I will do my best. 「最善をつくします」

「注意」

英語の「more than」
日本語の「〜以上」は
ちがう!

→ 「5以上」と言うとき

(×) more than five

→ 6以上

(○) five or more

<英文法超基礎プリント④⑥> Lv.★★★★☆ 対象:中2~

① 比較の文の書きかえ

① 比較級→比較級

My bag is bigger than yours. 「私のカバンはあなたのより大きい」
= Your bag is (1.) than mine. 「あなたのカバンは私のより小さい」
→ 比較の方向を逆にして、反対の意味の形容詞・副詞を使って表す!

② 比較級→ as ~ as

Tom is taller than Ken. 「トムはケンより背が高い」
= Ken is (2.)(3.)(4.)(5.) Tom.
「ケンにはトムほど背は高くない」
→ 「6. 」を使って比較の文を書きかえる!

② 最上級の文の書きかえ①

① 最上級→ as ~ as

Tom is the tallest in his class. 「トムはクラスで一番背が高い」
= No other student in his class is as tall as Tom.
「トムほど背が高い生徒はクラスにはいない」

(7.): 「8. 」

② 最上級→ 比較級[1]

Tom is the tallest in his class.
= Tom is taller than any other student in his class.
「トムはクラスの他のどの生徒よりも背が高い」

(9.): 「10. 」

③ 最上級→ 比較級[2]

Tom is the tallest in his class.
= No other student in his class is taller than Tom.
「クラスの他のどの生徒もトムより背が高くない」

(11.): 「12. 」

③ 最上級の文の書きかえ②

Time is the most precious thing of all.

「時間はすべての中で一番貴重なものだ」

= ① Nothing is as precious as time. 「時間ほど貴重なものはない」

(13.) : 「14. 」

= ② Nothing is more precious than time. 「時間より貴重なものはない」

(15.) : 「16. 」

= ③ Time is more precious than anything else. 「時間は何よりも貴重だ」

(17.) : 「18. 」

※ ~ の部分は ② の場合.

Nothing ~ → (19.) • (20.)

anything else → (21.) • (22.)

Tom is taller than anyone [anybody] else in his class.

「トムはクラスの誰よりも背が高い」

No one [Nobody] else in his class is taller than Tom.

「トムよりクラスで背が高い人はいない」 (as tall as)

<英文法超基礎④⑦> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2・3~

① 受動態とは

I clean this room. 「私はこの部屋を掃除する」
S V O

この文は「SがOをする」という形になっていて、「**する側**」に視点が置かれている。
この表現スタイルを(1.)と呼ぶ。

This room is cleaned. 「この部屋は掃除される」
S V

この文は「SがVされる」という形になっていて、「**される側**」に視点が置かれている。
この表現スタイルを(2.)といい、(3.)で表す。

② 過去分詞について

動詞には(4.)・(5.)・(6.)・(7.)・(8.)
という5つの形がある。②で**過去分詞形**[Vp.p.]について紹介だけしています!
変化のパターンの一例をあげます。(覚えておかなければならないものは②に全部載せています!)

変化パターン	原形	過去形	過去分詞形	変化パターンの説明
AAA型	cut (切る)	cut	(9.)	原形・過去形・過去分詞が全部同じ
ABB型	buy (買う)	bought	(10.)	過去形・過去分詞が同じ
ABA型	come (来る)	came	(11.)	原形と過去分詞が同じ
ABC型	know (知る)	knew	(12.)	原形・過去形・過去分詞が全部ちがう

③ 受動態の作り方

[能動態] I saw him in the station. 「私は彼を駅で見た」

① (13.)を文の主語にする。← 今回の例だと(14.)を(15.)にする。

② Vを(16.)にする。← He (17.) in the station.

③ S(する側)を示したいときは、(18.)を使う。

↑ He was seen by me in the station. 「彼は私に駅で見られた」

☆受動態のポイント

- ・後ろにOが来れる(19.)でないと作れない!
- ・Vのあとの(20.)が1つ少なくなる!(大事!)

4 byは常にいるのか?

受動態は「be動詞 + Vp.p. + by～」の形が多いが、流れ的に「21.」をわざわざ言う必要がないときは by は必要ない!

(X) English is spoken by people in that country.

「英語はその国で 人々によって 話されている」

→ 英語が「人々」によって話されるのは **アタリマエ** なのでわざわざ言う必要はない!

(O) English is spoken in that country.

5 by以外の前置詞を使う受動態

・ (22.) : 「23.」

Her name is known to everyone in her school.

「彼女の名前は学校みんなに知られている」

・ (24.) : 「25.」

The ground was covered with snow. 「地面は雪でおおわれていた」

・ (26.) : 「27.」



The room was filled with young people. 「その部屋は若者でいっぱいだった」



・ (28.) : 「29.」

This desk is made of wood. 「この机は木でできている」

・ (30.) : 「31.」

Paper is made from wood. 「紙は木から作られる」

※ of → パッと見て何でできてるかわかる!  →  木でできてるわかる!

from → パッと見て何でできてるかわからない!  →  パッと見て木ってわからん!

イメージは「キョリ」→ 見た目が「離れている」ことを表す

<英文法超基礎④⑧> Lv.★★☆☆☆ 対象:中2-3~

① 受動態の否定と疑問

受動態の基本形は「be動詞 + Vp.p.」なので、否定文と疑問文の形は

(1.) の場合と同じ! (わからない人は⑧・⑨へ!)

She was invited to the party. 「彼女はパーティーに招待された」
→ ⑧ She was (2.) invited to the party.
「彼女はパーティーに招待されなかった」

→ ⑨ (3.) she invited to the party? 「彼女はパーティーに招待されたか」
Yes, she was. / No, she wasn't.

② 疑問詞を使った受動態の疑問文

(1) (4.) をたずねたい場合 → (5.)

French is spoken in Canada. 「フランス語がカナダでは話されている」

↓

What language is spoken in Canada? 「カナダでは何語が話されていますか」

Which was chosen by him? 「どちらが彼に選ばれたか」

Who was invited to the party? 「誰がそのパーティーに招待されましたか」

(2) 主語[名詞]以外をたずねたい場合 → (6.)

This hotel was built in 2010. 「このホテルは2010年に建てられた」

When was this hotel built? 「このホテルはいつ建てられたか」

Where was the bag made? 「そのバッグはどこで作られたのですか」

Why is this wall broken? 「なぜこの壁は壊れているのか」

(3) 名詞[主語以外]をたずねたい場合 → (7.)

This book was written by Tom. 「この本はトムによって書かれた」

Who was this book written by? 「この本は誰によって書かれたのか」

☆ 疑問詞が? な人は③④~③⑥へ!

③ 助動詞 + 受動態

The shop will be opened next month. 「その店は来月ひらかれるだろう」

< 助動詞のある文の受動態 >

肯 (8.)

否 (9.)

疑 (10.)

④ SVOOの受動態

第4文型 [SVO₁O₂] は 2つ O があるので、2通りの受動態の文ができる。

He gave me this pen. 「彼は私にこのペンをくれた」
S V O₁ O₂

→ I was given this pen (by him). 「私はこのペンを彼からもらった」
(O₁→)S V (O₂→)O

→ This pen was given to me (by him). 「このペンは彼から私に贈られた」
(O₂→)S V (O₁→)O

< SVO₁O₂の受動態 >

O₁をSにした場合 → (11.)

O₂をSにした場合 → (12.)

※ 'for'タイプの動詞, 「buyなど」は、O₁をSにした受動態を作れない!

(X) He was made this bag. 「彼はこのカバンを作られた?」となりX

⑤ SVOCの受動態

He calls her Mary. 「彼は彼女をメアリーと呼んでいる」
S V O C

She is called Mary (by him). 「彼女は彼にメアリーと呼ばれている」
S V C

< SVOCの受動態 >

(13.)

<英文法超基礎④⑨> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2-3~

① 感情・心理を表す表現

感情や心理を表す表現は日本語では「～する」と能動的に表されるが、英語では受動態になる! その感情の原因・理由は (1.) などで表されることが多い。

① The news surprised me. 「そのニュースが私を驚かせた」

→ I was surprised at the news. 「私はそのニュースに驚いた」

(2.) : 「3. 」

② The news interested me. 「そのニュースは私に興味を持たせた」

→ I was interested in the news. 「私はそのニュースに興味があった」

(4.) : 「5. 」

③ The results satisfy him. 「その結果が彼を満足させる」

→ He is satisfied with the results. 「彼はその結果に満足している」

(6.) : 「7. 」

④ The game excited me. 「その試合は私を興奮させた」

→ I was excited about the game. 「私はその試合に興奮した」

(8.) : 「9. 」

② 被害を表す表現

人や物に被害を与える意味の動詞も、日本語では能動態で表されるが、英語では受動態で表される。

・ (10.) : 「11. 」

I was injured in a traffic accident. 「私は交通事故でけがをした」

・ (12.) : 「13. 」

He was killed in the war. 「彼はその戦争で亡くなった」

・ (14.) : 「15. 」

I was caught in a shower yesterday. 「私は昨日にわか雨にあった」

③ 群動詞の受動態

動詞が副詞や前置詞とセットになって、1つの動詞の意味を表すものを群動詞といふ。

(例) listen to ~ 「~を聞く」/ speak to ~ 「~に話しかける」など

このような群動詞を受動態にするには、群動詞を1つの他動詞と考えて変形する。

A foreigner spoke to me. 「外国人は私に話しかけた」

→ I was spoken to by a foreigner. 「外国人に話しかけられた」

<覚えておくべき群動詞>

・ (16.) : 「17. 」

He took care of the dog. 「彼はその犬の世話をした」

→ The dog was taken care of by him. 「その犬は彼に世話された」

・ (18.) : 「19. 」

He laughed at her. 「彼は彼女を笑った」

→ She was laughed at by him. 「彼女は彼に笑われた」

・ (20.) : 「21. 」

A car ran over the dog. 「車がその犬をひいた」

→ The dog was run over by a car. 「その犬は車にひかれた」

・ (22.) : 「23. 」

I cut down the old tree yesterday. 「私は昨日、その古い木を切り倒した」

→ The old tree was cut down by me yesterday.
「その古い木は昨日、私に切り倒された」

<英文法超基礎⑤⑤> Lv.★★★★☆ 対象:中2・3~

① 現在完了形とは

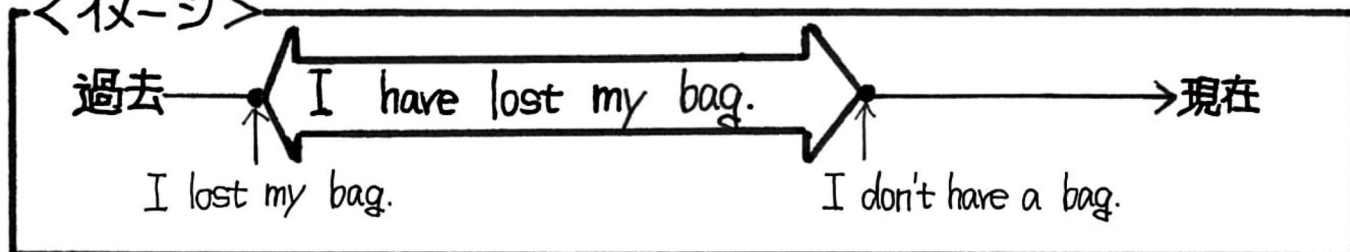
現在完了形はある過去から現在へのつながりを示し、(1.)を表す!
形は「2. 」!

[過去] I lost my bag. 「カバンを無くした」←単に過去にあったことで、今は関係ない!

[現在完了] I have lost my bag. 「カバンを無くしてしまった」←今も無い!

[現在] I don't have a bag. 「カバンを持っていない」←いつも持っていない

<イメージ>



<現在完了形の形>

肯定文: (3.)

否定文: (4.)

疑問文: (5.)

→ Yes, (6.)

/ No, (7.)

短縮形

I have → I've
He has → He's
have not → haven't

② 現在完了の用法① ~完了・結果~

現在完了形には「8. 」という、動作が「たった今完了したこと」を表す用法と「9. 」という、動作が「完了して、その結果が今も残っている」ことを表す用法がある。

→ 「書く」「泳ぐ」といった動作を表す動詞[10.]の「have + Vp.p.」は「11. 」ということを表す!

・ I have just finished my work. 「ちょうど仕事を終えたところだ」
→ 「仕事を終えた」状態を今も持っている。というニュアンス

・ She has already eaten dinner. 「彼女はもう夕食を食べてしまった」
→ 「食べた」状態を今も持っている(←「今はおなかがいっぱい」とか「もう夕食はいらない」),というニュアンス

3 現在完了の完了・結果用法のポイント

<完了・結果用法でよく使われる語句>

(12.): (13.) He has just arrived. 「彼はちょうど到着したところだ」

(14.): (15.) I have already read it. 「もうそれを読んでしまった」

→ have や has の (16.) におく!

否定文とセットで (17.): (18.)

I haven't read it yet. 「まだそれを読んでいない」 → (21.)

疑問文とセットで (19.): (20.) におく!

Have you read the book yet? 「もうその本を読みましたか」

4 現在完了の注意点

(22.) 語句は使えない!

→ (23.) / (24.): (25.) / (26.)

(27.): (28.) / ... etc.

I saw the movie yesterday. 「昨日その映画を見た」

→ I have seen the movie yesterday. は X

5 過去形と現在完了形 [完了・結果] の違いは?

I have lost my passport. 「パスポートを失くした」

→ (29.) 失くしていて、困ってる... というニュアンス

I lost my passport.

→ 単に「失くした」という事実や状態を述べているだけ!

今は戻ってきてるかもしれないし、再発行してもらってるかも、というニュアンス



過去に起こったことが (30.) と関連があるかないかということ!

<英文法超基礎⑤①> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2・3~

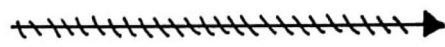
① 現在完了の用法② ~ 継続~

「書く」や「行く」のような動作動詞の現在完了形は (1.) の用法を表し、
「知っている」「住んでいる」のような状態動詞の現在完了形は (2.) の用法を表す。


I have lived in Osaka for 20 years. 「私は大阪に住んで20年になる」

→ 20年前から今に至るまで「ずっと住んでいる状態」を have してる、というイメージ

<イメージ>

I live in Osaka. 「大阪に住んでいる」 

→ 漠然とその毎日が続いているイメージ! 「いつ住み始め、いつ住み終わる」かは考えない。

I have lived in Osaka for 20 years. 

→ 「過去のある時点から今現在」までずっと続いているイメージ!

<継続用法でよく使われる語句>

(3.) : 「4. 」 → 具体的な期間がくる! (two years など)

(5.) : 「6. 」 → 過去を示す単語や時を示す英文がくる!

I have known Tom for ten years. 「私は10年間トムを知っている」

I have known Tom since 2010. 「私は2010年からトムを知っている」

※ since S' V' ~ で 「7. 」を表す。

I've been interested in baseball since I was a child.

「私は子どもの頃から野球に興味を持っている」

☆ 「8. 」って言えたら for, 言えなかったら since! って覚える!

② 継続の期間をたずねる場合

He has known her 10 years. 「彼は彼女と知り合って10年になる」

How long has he known her? 「彼は彼女と知り合ってどれくらいですか」

— For ten years. 「10年です」 / Since last year. 「昨年からです」

(9.) : 「10. 」

3 現在完了進行形

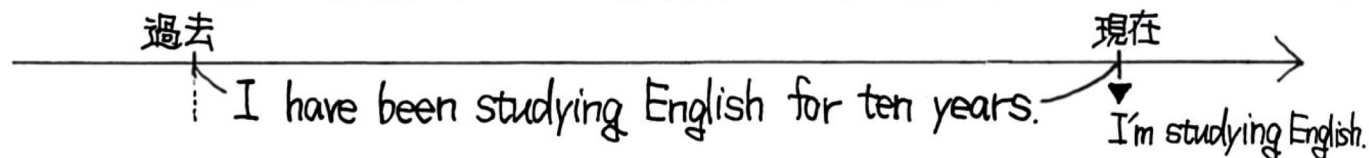
I am studying English. 「英語を勉強している」←現在進行形

→ 英語を勉強している途中で、まだ終わっていない。現時点での一時的な状態。

I have been studying English for ten years. ←現在完了進行形

「(これまで)英語を10年間勉強している」

→ 10年前から今現在までずっと「勉強している」状態が続いていることを表す。



< 継続を表す現在完了の用法 >

「10.

→ 使う動詞が (11.) を表す動詞のときは...
(12.)

→ 使う動詞が (13.) を表す動詞のときは...
(14.)

4 「~してから〇〇になる」

彼が亡くなって3年になる

→ ① He (15.) three years ago.

→ ② He (16.) for three years.

→ ③ Three years (17.) (18.) he died.

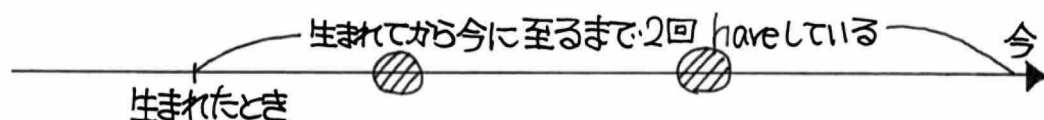
→ ④ It (19.) [= 20.] three years (21.) he died.

<英文法超基礎⑤②> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2・3~

① 現在完了の用法③ ~ 経験~

動作動詞の現在完了の用法である「~したことを今も have している」から、現在までに「1. [経験] という意味が生じる!

I have seen the movie twice. 「その映画を2回観たことがある」



<経験用法でよく使われる語句>

(2.) : 「3. 」 / (4.) : 「5. 」

(6.) : 「7. 」 / (8.) : 「9. 」

(10.) : 「11. 」

(12.) : 「13. 」 / (14.) : 「15. 」

Have you ever read the book? 「その本を今までに読んだことがある?」

— Yes, I have read it once. 「うん、1回読んだことがある」

— No, I have never read it. 「いや、1度も読んだことがない」

② 経験回数をたずねる文

(16.) : 「17. 」 ← 回数

How many times have you played tennis? — Four times.

「あなたは何回テニスをしたことがありますか」 — 「4回です」

(18.) : 「19. 」 ← 頻度

How often have you visited Tokyo? — Never.

「あなたは何回東京を訪れたことがありますか」 — 「一度もない」

③ have been to と have gone to

現在完了で be動詞を使うときは要注意! 訳し方がややこしい...

① have been + C : 「20. 」(継続)

I have been busy since yesterday. 「昨日からずっと忙しい」

② have been in + 場所 : 「21. 」(継続)

I have been in Osaka for two years. 「2年間ずっと大阪にいる」

③ (22.): 「23. 」(経験)
「24. 」(完了)

Have you ever been to Okinawa?

「今まで沖縄へ行ったことがありますか」

I have been to the hospital. 「病院へ行って来たところだ」

※ (25.): 「26. 」(完了)

He has gone to New York. 「彼はニューヨークへ行ってしまった」

④ never や ever, ~times がくると、 「27. 」(経験)を表すことがある

Has he gone to New York many times?

「彼は何度もニューヨークへ行ったことがありますか」

④ ever について

ever の訳は基本 「28.

」で大丈夫! ただ ever のイメージも知っておく!

→ ever のイメージは、 「29.

」!

Have you ever seen this?

→ 「(どんなときでも)これを見た?」 → 「今までこれを見たことがある?」

× I have ever been to Tokyo. 「(どんなときでも)東京に行ったことがある」となり×

never → not + ever : 「どんなときでも、~ない」

I have not seen the boy. 「その少年を見ていない」 ← 単純に見ていないことを

I have never seen the boy. 「その少年を見たこともない」 淡々と表す

↑ どんなときでも、見たことがない、と強調を表す

<英文法超基礎⑤③> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2~

① 不定詞とは

☞ 以後「to V」と表記します!

(1.)で表されるカタマリを不定詞・to不定詞という。

→ (2.)・(3.)・(4.)のどれかの働きをしながら、動詞の働きをするという「一人二役」的なイメージ!

< To speak English > is difficult. 「英語を話すことは難しい」
 S & (V) (O) V C

< >はSの働きをして、speakは「話す」というVの働きをしている!

② 不定詞の名詞的用法

「to V...」が(5.)のいずれかになってる! → 「6. 」と訳す!

① < To teach English > is my job. 「英語を教えることが私の仕事だ」
 S & (V) (O) V C

→ "to teach English"がisのSとなっている!

② I like < to play tennis >. 「私はテニスをするのが好きだ」
 S V O & (V) (O)

→ "to play tennis"がlikeのOとなっている!

③ My dream is < to become a doctor >. 「私の夢は医者になることだ」
 S V C & (V) (C)

→ "to become a doctor"がisのCとなっている!

③ 形式主語構文

「to V～」が文の(7.)になるとき、(8.)を文頭に置いて「to V～」を後ろに回すことがよくある! この8を形式主語[仮主語]といい、後ろに回った「to V～」を真主語と呼ぶ!

To study English is important.

→ It is important to study English.

} 「英語を勉強することは大切だ」

<形式主語構文>

It is ~ to V : 「9. 」!

④ 不定詞の形容詞的用法

(10.)の形で後ろから名詞を修飾する形容詞の働きをする!
→ 「11. 」 「12. 」と訳す!

We want something [to drink]. 「私たちは飲むための何かがほしい」
= 何か飲み物
S V O

They need a house [to live (in)]. 「彼らは住む家を必要としている」
↑ 「in a house」の「a house」が前に出るイ-ジ!
S V O

⑤ 不定詞の副詞的用法

「to V～」が副詞のように (13.)を修飾する用法が副詞的用法!
→ さまざまな意味があるので、その形や文脈で判断する!

① 目的を表し、 「14. 」と訳す!

I went (to the shop) (to buy a bag). 「カバンを買うためにその店へ行った」
S V

→ (15.)・(16.)で表されることも多い!

② 「(17.)を表す形容詞 + to V」で感情の原因を表し、 「18. 」と訳す!

I'm happy [glad] (to meet you). 「あなたに会えてうれしい」
S V

他にも、(19. 驚く), (20. がっかりする), (21. 残念だ) などがある。

③ 結果を表し、 「22. 」と訳す! ←よく出る形を覚える!

・ He grew up to be a famous actor. 「彼は成長して有名な俳優になった」

(23.): 「24. 」

・ She lived to be ninety. 「彼女は90歳まで生きた」

(25.): 「26. 」

・ I woke up to find myself on the bed. 「目覚めるとベッドにいた」
(27.): 「28. 」

<英文法超基礎⑤> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中2~ / 中3~ 高校~

1 名詞用法の不定詞②

名詞用法は (1.) の意味で (2.) となるカタマリ [← 名詞句といふ] を作る! (復習)
 → 名詞の働きをするが、(3.) にならないのに注意!

<形式目的語構文>

(X) He found to understand her difficult. 「彼は彼女を理解するのは難しいとわかった」
 S V O C

→ He found it difficult to understand her.
 S V O C ↑ itはto以下を指す!

★ 形式目的語構文でよく使う動詞

- ・ (4.) it ~ to V 「5. 」
- ・ (6.) it ~ to V 「7. 」
- ・ (8.) it ~ to V 「9. 」
- ・ (10.) it ~ to V 「11. 」

<疑問詞 + to V>

「疑問詞 + to V」で (12.) を作る! SやCにもなるが、動詞のOとして使われることが多い。

- | | | |
|--------|----------|------------------------------|
| (13.) | : 「14. 」 | } 「to V」の後ろは
(19.) 形になる! |
| (15.) | : 「16. 」 | |
| (17.) | : 「18. 」 | |

→ I don't know <what to say> 「私は何を言うべきかわからない」

- | | | |
|--------|----------|--------|
| (20.) | : 「21. 」 | 「22. 」 |
| (23.) | : 「24. 」 | |
| (25.) | : 「26. 」 | |

I don't know <how to swim> 「私は泳ぎ方を知らない」

- ・ (27.) はない!
- ・ (28.) : 「29. 」の形もある!
- ・ 「疑問詞 + to V」は (30.) で言い換えられる!

I don't know <what I should say>

② 名詞 + to V の3つの関係

不定詞の形容詞用法は (31.) の形で後ろから名詞を修飾する。
→ 「名詞」と「to V」で、「3つの関係」のどれかを考える必要がある!

① 「名詞」と「to V」が (32.) 関係になっている!

I have many things [to do [^] today.] 「今日はすることがたくさんある」
many things が to do の O になっている! (← do many things)

☆このタイプは「to V」の後ろが (33.) 形となる!

② 「名詞」と「to V」が (34.) 関係になっている!

I need someone [to help me]. 「私には助けてくれる人が必要だ」
someone が to help の S になっている! (← someone helps me.)

③ 「名詞」と「to V」が (35.) 関係になっている!

→ 「to V」が「名詞」の内容を説明する。「36. 」と訳す!

I have no desire to go abroad. 「私は海外へ行きたいという願望はない」

この用法は, decide to V → the decision to V (「Vするという決定」),
able to V → the ability to V (「Vするという能力」),
attempt to V → the attempt to V (「Vするという試み」) など,
ある程度決まった形が多い!

④ その他

It is time [to get up.] 「もう起きる(ための)時間だ」

I had no chance [to meet her] 「私には彼女に会う機会がなかった」

③ 副詞用法の重要表現

① (37.)

「38.

」 「39.

」

This book is too difficult to read. 「この本は読むには難しすぎる」

② (40.) : 「41. 」 「42. 」

She was kind enough to help me. 「彼女は私を手伝ってくれるほど親切だった」

<英文法超基礎④> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中2・3~(高1~)

① 否定の不定詞

不定詞を否定したいときは、(1.)と、不定詞の**直前**に置く!
I decided not to go to the place. 「私はその場所へ行かないことを決めた」

In order [so as] **not** to hurt her, I chose the words.
「彼女を傷つけないように、私はことばを選んだ」

② 不定詞の意味上の主語

to Vの前に (2.)をつけて、不定詞の**意味上の主語**という**"動作主"**を表す!

→ 必ずしも必要ってわけじゃない! 次のような場合は意味上の主語はいらない!

[1] 意味上の主語が特に明示する必要のない (3.) の場合

It is important to trust each other. 「(人)互いを信頼することが大切だ」
→ 「互いを信頼する」ことは誰にとっても大切なので**意味上の主語**を明示なくていい!

[2] 意味上の主語が (4.) と同じ場合

(Tom) wants to be a baseball player. 「トムは野球選手になりたい」
→ 「野球選手になりたい」のは「トム」なので、わざわざ「for Tom」としなくていい!

It is difficult for him to read this book. 「彼がこの本を読むのは難しい」
→ (5.) の形で「6. 」と訳す!

<意味上の主語を明示する形式主語構文>

(7.): 「8. 」

名詞用法以外にも**意味上の主語**をつけることがある!

There are some papers [for me to hand in]. 「私が提出すべき書類が数枚ある」
[形容詞用法]

※ hand in ~ : ~を提出する

I stepped aside (for them to pass). 「彼らが通れるように私は横によけた」
(副詞用法) ※ step aside : 横によける

☆ 「for ~ to V」を見たら、「9. 」と訳さない!

③ SVO to V

第42構でやった SVOCを作る動詞に、「SVO to V型」がある! 次の動詞を見たら、「O to V」の形になるかも! と予測しよう! (これ以外にもいっぱいあります!)

① (10.) : 「11. 」

$\frac{I}{S} \frac{told}{V} \frac{him}{O} \frac{<to \text{ study harder}>}{C}$ 「私は彼が[に]もっと熱心に勉強するよ言った」

② (12.) : 「13. 」

$\frac{I}{S} \frac{asked}{V} \frac{him}{O} \frac{<to \text{ help me}>}{C}$ 「私は彼が[彼に]助けてくれるよう頼んだ」

③ (14.) : 「15. 」 ← (16.)で「寧ろな表現に」

$\frac{I}{S} \frac{want}{V} \frac{you}{O} \frac{<to \text{ go there}>}{C}$ 「私はあなたが[に]そこへ行ってもらいたい」

= I would like you to go there.

④ (17.) : 「18. 」

$\frac{He}{S} \frac{advised}{V} \frac{me}{O} \frac{<to \text{ study English}>}{C}$ 「彼は私が[に]英語を勉強するのを助言した」

⑤ (19.) : 「20. 」

$\frac{We}{S} \frac{encouraged}{V} \frac{them}{O} \frac{<to \text{ do their best}>}{C}$ 「私たちは彼らが最善を尽くすよう励ました」

→ SVO to Vタイプは Oが意味上の主語となる!

④ その他の不定詞の重要表現

・ (21.) : (22.)

I tried to read the book. 「私はその本を読もうとした」

・ (23.) : 「24. 」

He helped me do my homework. 「彼は私が宿題するのを手伝ってくれた」

↑ (25.)はよく省略される! (④の部分[今回は"me"]も省略できる)

・ (26.) : 「27. 」

It took two hours for me to finish the work. 「私がその仕事を終わらせるのに2時間かかった」

<英文法超基礎⑤⑥> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中2~

① 動名詞とは

動詞に (1.)をつけて、(2.)の働きをするようになったものを
(3.)といい、(4.)と訳す!

Playing baseball is fun. 「野球をすることは楽しい」

② 動名詞の文中での働き

動名詞は文中で (5.)、(6.)になる! 5は不定詞の名詞的用法と同じ働きで、6は動名詞のみ!

① <Reading books> is interesting. 「本を読むことは面白い」
S & (V) (O)

→ 主語が長くなる場合、不定詞と同じように形式主語の (7.)を置いて、
(8.)の形で表すことができる。

It's a lot of fun <playing tennis>. 「テニスをするのは楽しい」

※ この形をとれるのは、nice, wonderful, dangerousなどの形容詞、fun, a pleasure[喜び・楽しさ], no use[ムダ]などの名詞が「へ」に使われるときのみ!

② I like <playing soccer>. 「私はサッカーをすることが好きだ」
S V O & (V) (O)

③ My hobby is <listening to music> 「私の趣味は音楽を聞くことだ」
S V C & (V) (O)

④ I'm interested in <playing the guitar>. 「私はギターを弾くことに興味がある」
④の O & (V) (O)

③ 否定の動名詞

否定の動名詞の (9.)に notや neverをつける!

<Never giving up> is important. 「決してあきらめないことが大切だ」

4 不定詞 vs 動名詞①

不定詞の名詞的用法も動名詞も「~すること」と訳すが、そのちがいは何なのか？

不定詞 (to V) は (10.)・(11.) を表し、(12.) 的なイメージ!

動名詞 [Ving] は (13.)・(14.) を表し、(15.)・(16.) 的なイメージ!

<不定詞だけをOにとる動詞>

(17.) : 「18. 」 / (19.) : 「20. 」
 (21.) : 「22. 」
 (23.) : 「24. 」

I decided to study English in America. 「アメリカで英語を勉強することを決めた」

<動名詞だけをOにとる動詞>

(25.) : 「26. 」 stop to V もあるけど、この to V は O ではない!
 (27.) : 「28. 」 / (29.) : 「30. 」
 (31.) : 「32. 」

It stopped raining. 「雨が降りやんだ」

<どちらでもOに取れる動詞>

(33.) to V / Ving : 「34. 」
 (35.) to V / Ving : 「36. 」
 (37.) to V / Ving : 「38. 」

＜英文法超基礎⑤⑦＞ Lv.★☆☆☆☆ 対象：中3～

1 不定詞 vs 動名詞②

＜不定詞・動名詞の両方を○にとり、それぞれ意味が違ふもの＞

$(1. \quad) : 2. \quad \rightarrow 3.$

Remember to write to her. 「忘れずに彼女に手紙を書いてね」

(4.) : 5.

I remember seeing her in the park. 「公園で彼女に会ったことを覚えている」

(6.) : 7.

Don't forget to buy a notebook. 「ノートを買うのを忘れないで。」

(8.) : 9.

I'll never forget visiting Hawaii. 「ハワイを訪れたことを忘れないだろう」

(10.) : 11.


He tried to climb the tree. 「彼はその木を登ろうとした。」

(12.) : 13.

He tried climbing the tree. 「彼は試しに木に登てみた。」

※ stop to V と stop Ving のちがいは...?

He stopped <thinking about it> 「彼はそれについて考えるのをやめた。」

He stopped (to think about it). 「彼は立ち止まってそのことを考えた」
S V  目的を表す副詞的用法

stop Ving ~ : '14.

stop to $V \sim$: $r|5.$
 $\rightarrow r|6.$

②動名詞の意味上の主語

不定詞と同様、動名詞にも意味上の主語がある。

→動名詞の意味上の主語は(17.)または(18.)で表す!

I'm proud of my brother ('s) studying at Tokyo University.

「私は兄が東大で勉強していることを誇りに思う」

I don't like her smoking. 「私は彼女がタバコを吸うのを好まない」

～意味上の主語が明示されない場合～

[1]意味上の主語が(19.)の場合

Seeing is believing. 「見ることは信じることだ(←百聞は一見にしかず)」

[2]意味上の主語が(20.)と同じ場合

I like playing baseball. 「私は野球をすることが好きだ」

[3]意味上の主語が(21.)と同じ場合

I thanked her for helping me. 「私は手伝ってくれたことを彼女に感謝した」

[4]意味上の主語が文脈から明らかな場合

My hobby is playing video games. 「私の趣味はゲームをすることだ」

③動名詞を使った重要表現

(22.): 「23. 」

I don't feel like studying. 「私は勉強する気がしない」

(24.): 「25. 」

How about going to the movies? 「映画を見に行くのはどうですか」

(26.): 「27. 」

Thank you for helping me. 「手伝ってくれてありがとう」

(28.): 「29. 」

I'm looking forward to seeing you.

「あなたに会えるのを楽しみに待っている」

<英文法超基礎⑤⑧> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中3~

① 分詞について

分詞には ing 形の (1.) と Vp.p. の (2.) がある!

<現在分詞と過去分詞の意味>

現在分詞は「I'm running」のように「3. 」の意味がある。

過去分詞は大きく2つの意味がある。

①「This book was bought」のような「4. 」(受動)

②「I have finished my homework」のような「5. 」(完了)

② 分詞の働き

(1) (6.) の働き

① 名詞を修飾する

Look at that sleeping baby. 「あの眠っている赤ちゃんを見て」

② C になる

I heard my name called by someone. 「誰かに名前が呼ばれるのが聞えた」
S V O C

(2) (7.) の働きをして、文全体を修飾する。この文を (8.) という。

(Driving a car) he had an accident. 「車を運転していて、彼は事故にあった」

(Seen from the sky), this lake is beautiful. 「空から見ると、この湖は美しい」

③ Ving・Vp.p. の形容詞的用法

分詞は基本的に形容詞の働きをするので、Ving・Vp.p. の形容詞的用法と考える! 考え方は不定詞の形容詞的用法と同じ!

[1] Ving の形容詞的用法: 「9. 」という能動の意味

a crying baby: 泣いている赤ちゃん / developing countries: 発展途上国

[2] Vp.p. の形容詞的用法

→ 他動詞の場合、「10. 」

「10. 」という受動の意味 a stolen car: 盗まれた車

→ 自動詞の場合、「11. 」

「11. 」という完了の意味 developed countries
発展した国 → 先進国

4 名詞を修飾する分詞の用法

<分詞の位置>

① 名詞の (12.) → (13.) で使われる場合

The **standing** man is Tom. 「立っている男性はトムだ」

I found my **stolen** bike. 「私の盗まれた自転車を見つけた」

② 名詞の (14.) → (15.) になる場合

The man **standing at the corner** is Tom. 「角に立っている男性はトムだ」

That is the picture **taken in Kyoto**. 「あれは京都で撮られた写真だ」

5 分詞の使い分け

分詞と修飾される名詞が (16.) となれば (17.)、
(18.) となれば (19.) を使う。

a person **having a yacht** → 「a person」が「ヨットを持っている」→ Ving
※ have は状態動詞なので ing 形にできないが、この用法では使える!

the man **called Tom** → 「the man」が「トムと呼ばれている」→ Vp.p.

<感情系の動詞>

an **exciting** game : 「(人を)興奮させる試合」→ 「わくわくする試合」

an **excited** boy : 「(人は)興奮させられる」→ 「興奮した少年」

→ ⑧ がモノであれば (20.)、人であれば (21.)!

他にも...

bore : 「22.

」/ surprise : 「23.

interest : 「24.

」/ tire : 「25.

※ 完了の意味になる Vp.p. (あまりない)

fallen leaves 「落ちられた葉」(×) 「落ちた葉」→ 「落ち葉」

<英文法超基礎⑤⑨> Lv.★★☆☆☆ 対象: 中2・3~

①前置詞の働き

inやofなどの前置詞は(1.)とセットになる。このカタマリのことを前置詞句といい、以下の2つの働きをする!

①(2.)の働きをして、名詞を(3.)から修飾する!

The book [on the desk] is mine. 「机の上の本は私のです」
The book on the desk is mine.

※例外的に(4.)として働く場合もある

He is in danger. 「彼は危険な状態だ」 「He = in danger」

②(5.)の働きをして、(6.)を修飾する!

I live in Osaka. 「私は大阪に住んでいる」
I live in Osaka.

☆どちらの働きも(7.)としての役割を果たす!

②他動詞みたいに働く前置詞

①(8.)+前置詞の形で(9.)と考え、後ろにOがくる!
→ イディオムとして覚える!

He looked at her. 「彼は彼女を見た」
He looked at her.

<動詞+前置詞でセットになるもの>

- look at A : (10.) / look for A : (11.)
- listen to A : (12.)
- arrive at A / get to A : (13.)
- wait for A : (14.)

②(15.)で1つのVと考える! (←①と同じ!)

My idea is different from yours. 「私の考えはあなたのとちがう」
My idea is different from yours.

<be 形前置~タイプ>

be different from A : 「16. 」

be late for A : 「17. 」

be famous for A : 「18. 」

3 副詞の働きをする前置詞句[熟語]

- (19.) : 「20. 」
(21.) : 「22. 」
(23.) : 「24. 」 / (25.) : 「26. 」
(27.) : 「28. 」
(29.) : 「30. 」
(31.) : 「32. 」
(33.) : 「34. 」

4 2語以上が1つの前置詞となるモノ

2語以上がまとまって1つの前置詞の働きをするものを**群前置詞**という。

→ **イディオム**として覚える!

- (35.) : 「36. 」
(37.) = (38.) : 「39. 」
(40.) : 「41. 」
(42.) : 「43. 」
(44.) : 「45. 」
↓
(46.) : 「47. 」

<英文法超基礎⑥⑩> Lv. ★★☆☆☆ 対象: 中1~

① 時を表す前置詞 (at・on・in)

時刻を表すときは(1.), 曜日や特定の日付を表すときは(2.), 年・季節・月を表すときは(3.)を使う。

I get up at seven. 「私は7時に起きる」

I meet him on March 10. 「私は彼に3月10日に会う」

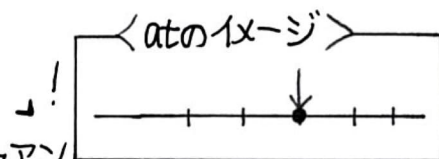
I meet him in August. 「私は彼に8月に会う」

② at・on・inの使い分け

時を表す at のイメージは「4.

「時計の針」のイメージで、「00時の地点で〜をする」というニュアンスになる! また、(5.

):「6. 」のように時間の幅も表せる!



on は何かに「7. 」イメージ!

→「on time」は「時間にピッタリとくっついてる」と考えて、

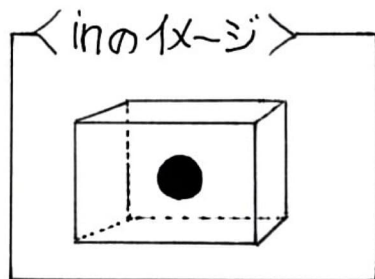
「時間ちょうど」→「時間通りに」となる。



in は「8. 」というイメージ!

→「in time」は「時間という箱の中」と考えるから、

「時間内に」→「間に合って」となる。



Q. 次の場合、in, on, atのどれを使う?

(1) 午前中に → (9.) the morning

→「午前」という箱の中に、となり、幅の広い時間帯は(9.)を使う。

(2) 最後に → (10.) the end

→「時の流れの最後の地点に」と考え、(10.)を使う。

(3) 6月17日の朝に → (11.) the morning of June 17.

→「ある特定の日の朝にくっついてる」と考え、(11.)を使う。

(4) 1時間で宿題を終わらせる → finish my homework (12.) an hour.

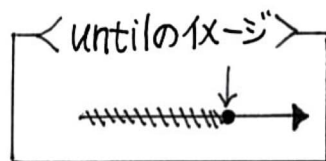
→「1時間」という箱の中に、と考え、(12.)を使って、「1時間で」となる。

3 制限された時を表す前置詞

I must stay here **until** tomorrow afternoon.

→ **until** は継続する動作の終了地点を示し、「13.
「私は明日の午後までここに滞在しなければならない」

」と訳す。



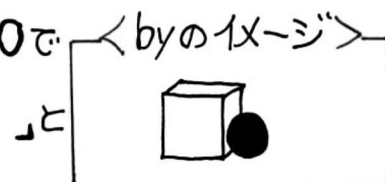
I must leave **by** tomorrow afternoon.

→ **by** は「14. 」という場所を表す。by 6:00で

あれば、6時という1地点の「そば」を表し、「15.

訳す。動作が完了することを表す!

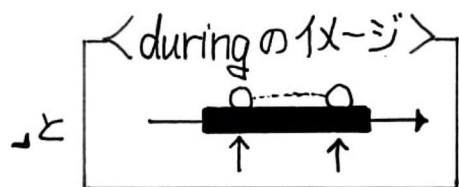
「私は明日の午後までに出発しなければならない」



Tom stayed in Japan **during** the summer.

→ **during** は「16. 」を表し、「17.

訳す。「トムは夏の間、日本に滞在した」

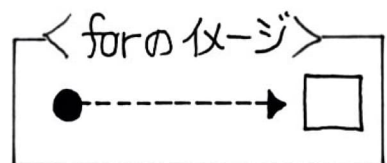


Tom stayed in Japan **for** a month.

→ **for** は「18. 」を表し、時間を出す

場合、「19. 」とセットで「かかった時間」が後に続く。

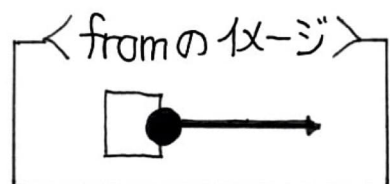
「トムは1ヶ月間日本に滞在した」



The meeting will start **from** 3:00.

→ **from** は「ある場所から離れる」の意味で、動作や状態の
(20.)を表し、「21. 」と訳す。

「その会議は3時から始まる」

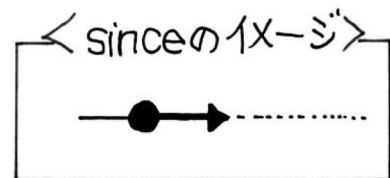


I have been doing this **since** 3:00.

→ **since** は、「22. 」から今に向かうイメージ。

主に現在完了形で使われ、「継続」を表す。「23.

「私は3時から(ずっと)これをしている」



」と訳すとわかりやすい。

※ in と within のちがい

She will be come back **in** an hour. 「彼女は1時間たてば戻ってくる」

She will be come back **within** an hour. 「彼女は1時間以内に戻ってくる」

<英文法超基礎⑥> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中1・2~

① 場所を表す主な前置詞

① He is **at** the station. 「彼は駅にいる」



→ **at** は「1.」を表すので、「at the station」は「駅という1つのエリア」を指す。「駅の中」も「駅の入り口」も表せる!

② He is **in** the station. 「彼は駅(構内)にいる」



→ **in** は「2.」を表すので、「in the station」は「駅構内に」を示す。

③ I was standing **on** the train. 「電車で立っていた」

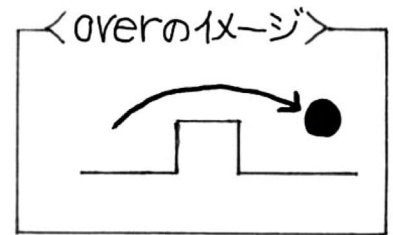


→ **on** は「3.」がコアイメージなので、「on the train」は「電車の上に足を付けて立っている・座っている」というニュアンスになる。

また、「馬に乗る」や「自転車に乗る」は「上にまたがっている」ので(4.)を使う! 車などの小さな乗り物は「中へ乗り込む」イメージなので(5.) a car となる。

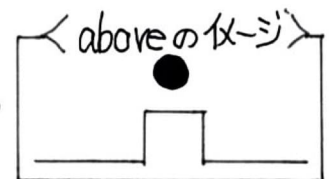
② その他の場所を表す前置詞①

(6.) : 「7.」
There is a paraglider flying **over** the sea.
「パラグライダーが海の上を飛んでいる」

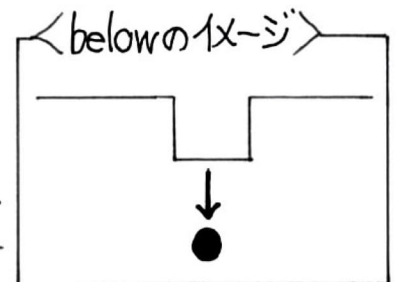


→ **over** は「かぶせる感覚」で下になるモノよりも大きなモノで覆うイメージ!

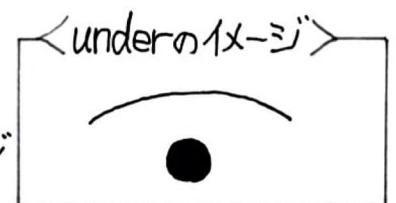
(8.) : 「9.」
→ **above** は「より上」を指し、下になるモノより「小さいモノ」に使う。
Can you see the moon **above** this bridge?
「この橋の上の月が見えますか」



(10.) : 「11.」
→ **below** は、位置や数量、質などが「12.」ことを表す。
The sun sinks **below** the horizon.
「太陽が地平線の下に沈む」



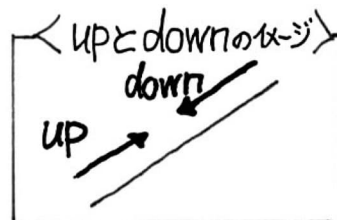
(13.) : 「14.」
→ **under** は「15.」を表し、「何かに覆われている」イメージ。
The cat is **under** the table.
「そのネコはテーブルの下にいる」



③ その他の場所を表す前置詞②

(16.) : 「17. 」 / (18.) : 「19. 」

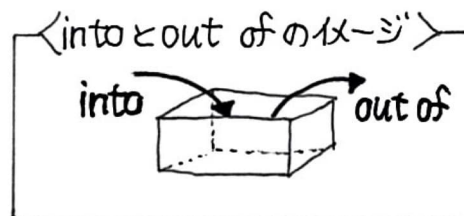
He ran **up/down** the hill. 「彼は丘を駆け**上がった**
下りた」



(20.) : 「21. 」 / (22.) : 「23. 」

They jumped **into** the pool.
「彼らは**プール(の底へ向かって)に飛び込んだ**」

He went **out of** her house.
「彼は彼女の家**から出ていった**」

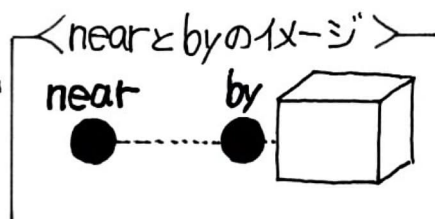


④ 「近くに」系の前置詞

(24.) : 「25. 」 / (26.) : 「27. 」

I live **near** the sea. 「私は海の**近くに**
住んでいる」

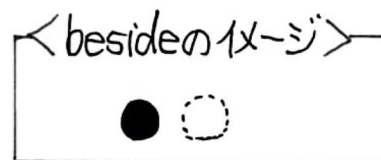
She always sits **by** the window.
「彼女はいつも窓の**そばに**座っている」



(28.) : 「29. 」

She sat **beside** him. 「彼女は彼の**横に**座った」
⇨ She sat **next to** him. 「彼女は彼の**隣に**座った」

→ (30.) は 「31. 」を表し、**beside**の方がより近い。



⑤ 「間に」系の前置詞

(32.) : 「33. 」

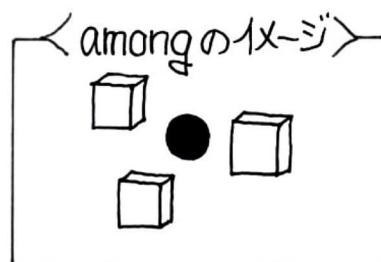
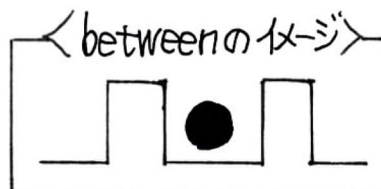
→ 2つのものの**間**にあることを示す。

He sat **between** me and her.
「彼は**私と彼女の間に**座った」

(34.) : 「35. 」

The song is popular **among** young people.

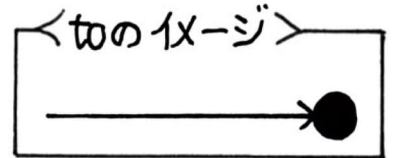
「その歌は**若い人たちの間で**人気がある」



<英文法超基礎⑥2> Lv.★★★☆☆ 対象: 中2・3~

① 方向を表す前置詞① ~ to・for・from~

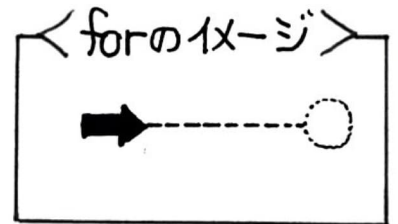
- ・(1.) : 「2. 」
→ toは「あるところに向かって進み、最終的に到達地点へ(3.)」イメージ!



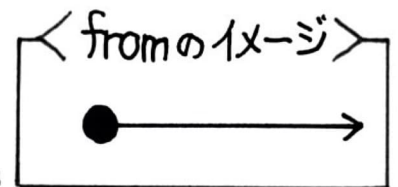
She went to the living room. 「彼女はリビングへ行ったよ」

- ・(4.) : 「5. 」
→ forは「あるところに向かって」という「6. 」を
表し、「7. 」イメージ!

She headed for the station.
「彼女は駅へ向かったよ」



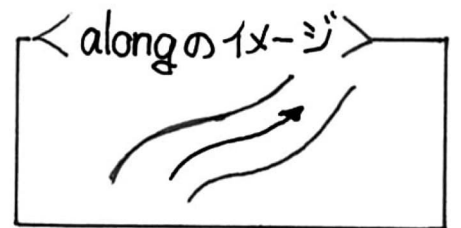
- ・(8.) : 「9. 」
→ fromは「10. 」を表す!
He came from Hokkaido. 「彼は北海道から来た」
from A to B : 「11. 」



② 方向を表す前置詞② ~ along・through・across~

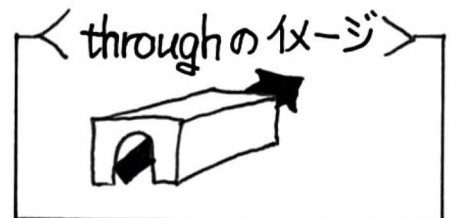
- ・along : 「12. 」
→ alongは「13. 」を表し、道や川に沿って
端から端までというような移動を表す。

I walked along the river. 「川沿いを歩いた」

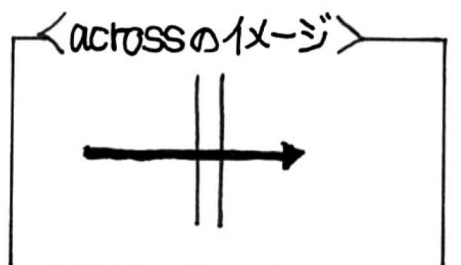


- ・^{スルー}through : 「14. 」
→ throughは「空間・平面の(15.)」を表す。

The train went through the tunnel.
「電車はトンネルを通り抜けた」



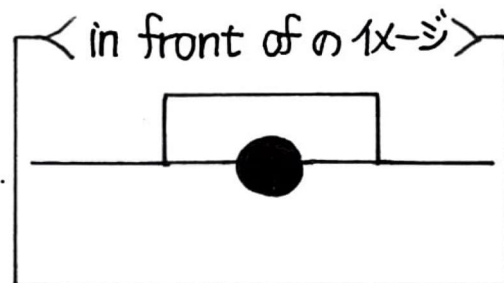
- ・(16.) : 「17. 」
They ran across the street.
「彼らは道路を走って渡った」



③ 場所・方向を表す前置詞

- in front of ~ : 「18.」
→ 「すぐ目の前」を指す!

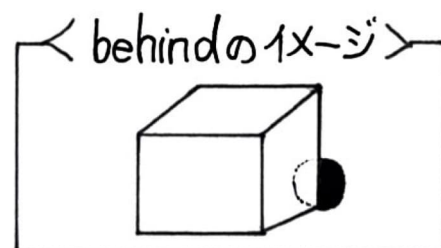
The bus stopped in front of the station.
「バスは駅の前で止まった」



- at the back of : 「19.」
= (20.) / (21.)

→ 対象が背後に隠れているイメージ。

There was a garden behind the hotel.
「そのホテルの後ろには庭があった」



- beyond : 「22.」

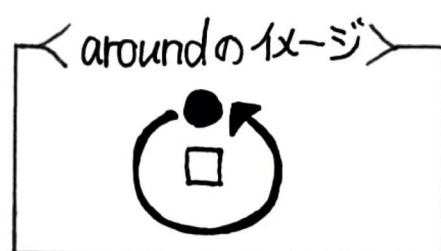
My house is beyond that river.
「私の家はあの川の向こうにある」



- around : 「23.」

→ 対象の周りをひと回りする 「24.」 のイメージ。

There are trees around the lake.
「湖の周りに木々がある」

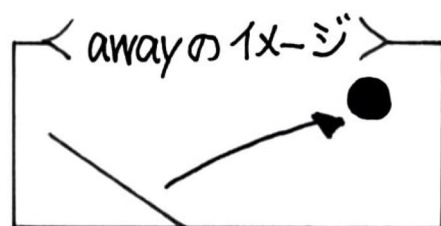


④ 「離れる」系の前置詞

- away : 「25.」 ← 前置詞というより副詞!

→ away は単に 「26.」 イメージ!
対象がある場合は「〜から」というスタート地点を表す
(27.) が必要!

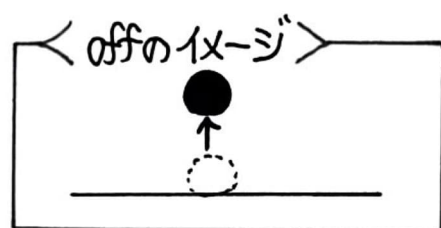
He is away from his desk now. 「彼は今席を外している」



- off : 「28.」

→ off は 「29.」 から離れて、という
イメージ! On ↔ off をセットで考える!

I got off the bus. 「バスから降りた」



<英文法超基礎⑥3> Lv.★★★★☆☆ 対象:中1~

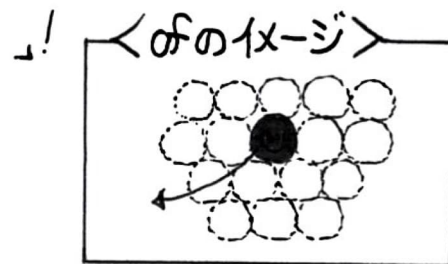
① ofについて

ofの基本的なイメージは「1.

I am a member of the team.

「私はそのチームの一員だ」

→ チームからメンバー1人を取り出すイメージ



<ofを使った重要表現>

a piece of A : 「2. 」(L②)

be made of A : 「3. 」(L④)

die of A : 「4. 」

think of A : 「5. 」

speak of A : 「6. 」

Q 「アメリカの米」は rice of America or American riceのどちら?

→ ofは「全体から一部を取り出す」イメージなので、「rice of America」は「アメリカから米を取り出す」ニュアンスになり、少し大げさな印象となる。単に、「アメリカ産の米」と言えればいいので、(7.)が自然な表現となる!

② 「~について」系の前置詞

・ (8.): 「~について」

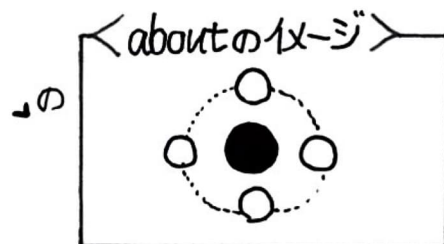
→ イメージは「9. 」! そこから「10.

意味が生まれる。

I talked about Japanese history.

「私は日本の歴史について話した」

→ 「日本の歴史に関するいろいろな話」という感じ!



・ (11.): 「~について・に関して」

→ 「12. 」イメージなので、「on+テーマ」は「13.

という専門的なニュアンスになる!

He wrote a book on education. 「彼は教育についての本を書いた」

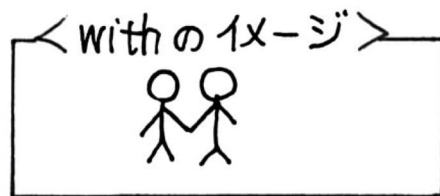
・ (14.): 「~について」

→ 「全体→一部」なので「15. 」・「16. 」ときに使う。

What do you think of her? 「彼女についてどう思う?」

3 様々な with の用法

with は (17.) が基本的な意味! そこから
所有・道具・付帯状況 といった用法が派生し、逆方向の
対立 なども表す。 また詳しくやります!



I live with my parents. 「私は両親と一緒に住んでいる」

・ 対立の with: 「18. 」 ← 2通りの解釈がある

I fought with him. 「私は彼と戦った[けんかした]/と一緒に戦った」
→ 対立[VS]の意味を明確にしたい場合は with より (19.) を
使った方がいい! もう1つの意味は (20.) と同じ意味。

・ 所有の with: 「21. 」 = (22.)

He likes girls with short hair. 「彼は短い髪を持つ女の子が好きだ」
→ 短い髪の

I have a dictionary with me. 「私は辞書を(この場に)持ってきている」
→ この with は have・bring・carry といった動詞とセットで使われたとき、
「23. 」を強調する!

・ 道具[手段]の with: 「24. 」 ← by とのちがいに注意!

→ with は 「25. 」で、by は 「26. 」を表す!

I broke the window with a hammer. 「ハンマーで窓を割った」

→ with は 「27. 」となるため、例文のように

「with + 道具」になる。by を使うと、「ハンマー」が意志を持って割ったニュアンスになる。

I go to school by train. 「電車で通学する」

→ by は 「28. 」となるため、「by foot [on foot]: 徒歩で、」
のように (29.) でその名詞の機能を表す。

4 その他の前置詞

(30.): 「31. 」 They sing like a bird. 「彼らは鳥のように歌う」

☆「へで」系

I watched it (32.) TV/the Internet. 「それをテレビ/ネットで見た」

I bought it (33.) 100 yen. 「それを100円で買った」

＜英文法超基礎⑥＞ Lv.★★★★☆ 対象：中1～3

① 句と節とは

<To become a teacher> is <my dream>. 「先生になることが私の夢だ」
S → 名詞句 C(修飾語+名詞)

That is the picture [taken in Kyoto]. 「あれは京都で撮られた写真だ」
M → 形容詞句

I waited (for two hours) (at the station). 「私は駅で2時間待った。」
 M → 副詞句 M → 副詞句

などのように「不定詞」や「分詞」などの(1.),「前置詞句」といった、

2語以上の単語でできているカタマリを(2.)という。名詞・形容詞・副詞の働きをするので、それぞれを<3. >、[4.], (5.)と呼ぶ。

Tom said <that he knew nothing (about the woman)>.
 ⑤ ④ ③ → 名詞節 S' V' O'

「トムはその女性について何も知らないと言った」

上の例文の< >のように、SVを持つカタマリを(6.)という。名詞・形容詞・副詞の働きをするので、それぞれを<7. >、[8.], (9.)と呼ぶ。

2 接統詞

語と語、句と句、節と節をつなぐ働きをするものを「10. 語句結合詞」といい、その結びつき方によって(11. 語句結合詞の種類)と(12. 語句結合詞の働き)の2種類に分かれる。

③ 等位接統詞

語と語、句と句、節と節のように文法的に(13.)種類のものをつな
げる接続詞を(11.)という。

→ 11には (14.)があり、(15.)は
語と語、句と句を結びつけない。

[語と語] → Tom and Ken 「トムとケン」

[句と句] → in cash or by credit card 「現金で、もしくはクレジットカードで」

[節と節] → He likes cheese **but** I don't. 「彼はチーズが好きだが、私は嫌い」
(文と文)

④ and

① A and B で「16. 」の意味になり、語句、節を結びつける。

・ I bought a pen and eraser. 「私はペンと消しゴムを買った。」

・ To say and to do are different things. 「言うことと行うことは別物だ。」

・ I took a shower and (I) went to bed. 「シャワーを浴びて、寝た。」

→ 節と節でつなぐ場合、主語が**タズ**るときは、後の節の主語は(17.)されることが多く、「V₁... and V₂...」という形になり、「18. 」と訳す!

・ He can speak Japanese, French, and English. 「彼は、日本語、フランス語、そして英語を話せる。」
A B C

→ 3つ以上のものをつなげるときは、(19.)と最後に and を付け加える。

② (20.): 「21. 」

Study hard, and you will pass the exam.

「一生懸命勉強しなさい、そうすればあなたは試験に合格するだろう。」

↓ (22.)を使って表すこともできる!

If you study hard, you will pass the exam.

「もし一生懸命勉強したら、あなたは試験に合格するだろう。」

⑤ or

① A or B で「23. 」 「24. 」の意味になり、語句、節を結びつける。

Would you like tea or coffee? 「お茶かコーヒーどちらにしますか。」

Do you go to a school by train or by bike?

「あなたは電車で学校へ行きますか、それとも自転車で行きますか。」

② A, or B で「25. 」の意味になることもある。

It weighs one kilo, or a little over two pounds.

「それは1キロ、すなわち2ポンドちょっとの重さである。」

③ (26.): 「27. 」

Study hard, or you will fail the exam. 「一生懸命勉強しなさい、さもないと試験に落ちる。」

= If you don't study hard, you will fail the exam.

<英文法超基礎⑥> Lv.★★★★☆☆ 対象:中2・3~

① but

① A but Bで「1. A. 」 「2. 」の意味になり、語・句・節を結びつけ、前で述べた内容と反対のことが後ろにくるが、意味の重点は Bにある。

I went to see Ken, **but** he was out.
「私はケンに会いにいった**が**、彼は出かけていた」

② not A (,) but Bで「3. 」の意味になる。

I'm studying **not** French, **but** English. 「私はフランス語**ではなく**英語を勉強している」

② so・for

・ A, so B: 「4. 」 「5. 」

She had a fever, **so** she went to a hospital.
「彼女は熱があった**ので**、病院へ行った」

・ A, for B: 「6. 」

→ **for** は前で述べたことの原因や判断の根拠を補足的につけ加える。

I feel sleepy, **for** I stayed up late last night.
「私は眠たい。というのは昨夜、夜更かしをした**からだ**」

※ **for** は改まった表現で、堅い文で使われる。

→ 理由を表す接続詞としては (7.)の方が使われる!

※ **so**, **for** のいずれも (8.)では用いられない!

→ 「〇〇だ**ので**、XXだ」という文を作るには、**because** や **as** を使う。

③ norについて

nor は「not + or」で、(9.) + A, **nor** B の形で

「10. 」の意味になる。 ← 倒置という!

→ **nor** の後ろに文を作る場合は、(11.)になる!

I **don't** like cheese, **nor** does she.

「私はチーズが好き**でない**し、彼女も好き**ではない**」

④ and · or · but を使った重要表現

① (12.) : 「13. 」

She can speak both English and French.

「彼女は英語とフランス語の両方話せる」

② (14.) : 「15. 」

We can choose either rice or bread.

「私たちはライスかパンのどちらかを選べる」

③ (16.) : 「17. 」
= (18.)

I like neither math nor science. 「私は数学も理科も

= I don't like either math or science. どちらも好きでない」

④ (19.) : 「20. 」

= (21.)

She can speak not only English but also French.

= She can speak French as well as English.

「彼女は英語だけでなくフランス語も話せる」

⑤ 動詞の形

① both A and B → (22.) 扱い

Both he and I are wrong. 「彼と私の両方ともまちがっている」

② not A but B / not only A but also B } (23.) に合わせる!
either A or B / neither A nor B

Neither Tom nor his parents are here. 「トムも両親もここにはいない」

③ B as well as A → (24.) に合わせる!

You as well as I are wrong. 「私だけでなくあなたもまちがっている」

<英文法超基礎⑥⑥> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中2・3~

① 従属接続詞

話の中心となる英文のカタマリを(1.)といい、文の中で主語や目的語、補語などになったり、修飾語として働くカタマリを(2.)という。その2を作る働きをするのが(3.)である!

→ 3には <4. >と(5.)を導くものがある!

② 名詞節を作る接続詞

名詞節を作るモノは、従属接続詞の(6.)、間接疑問文を作る(7.)、関係代名詞の(8.)がある。

→ それぞれまた詳しく解説するので、今回は **that** だけを取り上げます!

③ 名詞節を作る that

名詞節とは **名詞の働きをする節**、つまり(9.)の働きをする文のこと! (例外はあるけど**前置詞の目的語**にもなれます!)

I don't know <that he is shy> 「私は彼が恥ずかしがりやだと知らない」
⑤ ⑥ ⑦ S V C

→ 接続詞の **that** は「10. 」という意味の名詞節になり、文中で S・O・C になる。

[1] Sになる場合

<That he will come (to the party)> is certain.
⑧ S V C

→ 名詞節が S になると、アタマでかちな文になるので、(11.)を文頭に置いて、名詞節を後ろに回す! (← 形式主語構文 [L53])

<It> is certain <that he will come to the party>
S V C

「彼がそのパーティーに来ることは確かだ」

[2] Oになる場合 ← よく省略される!

I believe <that the team will win> 「私はそのチームが勝つと信じている」
⑨ ⑩ S V

→ say や believe・think などの(12.)系の V や know などの V の O に that 節が来る場合、この **that** はよく(13.)!

3 つづき

[3] Cになる場合

The problem is < that he is lazy > 「問題は彼が怠け者だということだ」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

< Cになるthat節の頻出表現 >

• The fact is that ~: 「14.

」→ 「15.

• The problem is that ~: 「16.

」→ 「17.

• The trouble is that ~: 「18.

」→ 「19.

→ このthatも (20.) できる!

[4] SVOCのOがthat節の場合

I think < that she told a lie > clear. 「彼女がウリをついたのは明らかだと、私は思う」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

→ I think it clear < that she told a lie >.
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

☆ that節がSVOCのOになるとき、形式目的語の(21.)を用いて、that節は後ろにおく! (← 形式目的語構文 [L54])

4 時制の一致

that節の中の動詞や助動詞の時制[現在・過去・未来など]を、thatの前の時制に合わせることを「時制の一致」という。

He said < (that) he was busy >. 「彼は忙しいと言った」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

He says < (that) he is busy >. 「彼は忙しいと言っている」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

※ that節に助動詞を使う場合

He says < (that) he will go there >. 「彼はそこへ行くつもりだと言っている」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

He said < (that) he would go there >. 「彼はそこへ行くつもりだと言った」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

< 時制の一致の例外 >

She said < (that) she walks every morning >. 「彼女は毎朝歩いていると言った」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

I knew < the earth is round >. 「私は地球が丸いということを知った」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

→ that節が(22.)や(23.), つまり(24.)系を表すときは、時制の一致の影響を受けない。

<英文法超基礎⑥⑦> Lv.★★★☆☆ 対象: 中2・3~

① 副詞節を作る従属接続詞

副詞節を作るモノは、前回やった (1.)とそれ以外の
の従属接続詞 (以下、㊦とする) である! (← 覚えていくしかない!)

↳ when とか because とか while とか、いろいろあります!

<副詞節の㊦の基本形>

㊦のカタマリから訳す! ~

① (2.) ② (3.)

② 時を表す接続詞

① (4.): 「5. 」

(When I see my friends), I feel happy. 「友達に会うと幸せな気分になる」
㊦ S' V' O' ㊤ ㊦ ㊦

② (6.): 「7. 」

I fell asleep (while I was reading). 「本を読んでいる間に眠ってしまった」

③ (8.): 「9. 」 ← (10.)とセットで!

He arrived (after you left). 「あなたが帰った後に、彼は到着した」

He arrived three hours after you left.

→ after の前に具体的な年・月・日数などがきた場合、「11. 」
という意味になる。(「あなたが出発してから3時間に彼が到着した」)

④ (12.): 「13. 」

Write it down (before you forget it).

「忘れる前に・忘れないうちに それを書いておきなさい」

☆ ③~⑥は
前置詞の用法
もある!

⑤ (14.): 「15. 」

I waited (until he came back). 「私は彼が帰ってくるまで待った」

⑥ (16.): 「17. 」 ← (18.)の文でよく使う。

I have lived in Osaka (since I was a child). 「子どものときから
大阪に住んでいる」

③条件を表す接続詞

① (19.): 「20. 」

(If it rains tomorrow), the game will be canceled.

「もし明日雨なら、試合は中止になるだろう」

② (21.): 「22. 」 「23. 」

I work late at night (unless I'm tired). 「疲れていない限り、私は夜遅くまで働く」

④時・条件を表す接続詞の重要用法

②・③のような時・条件を表す接続詞が副詞節として働く場合、
未来のことでも (24.) で表す!

I will call you (after I arrive). 「到着してから、あなたに電話します」

Let's start (when he comes). 「彼が来たら出発しよう」

⑤理由を表す接続詞

• (25.): 「26. 」

(Because he studied hard), he passed the exam.

「彼は一生懸命勉強したので、試験に合格した」

⑥譲歩を表す接続詞

① (27.): 「28. 」

(Although he had a fever), he didn't go to a hospital.

「彼は熱があっても、病院に行かなかった」

② (29.): 「30. 」

(Even though you are my friend), I can't lend you some money.

「たとえあなたが私の友達だとしても、お金を貸すことはできない」

※ (31.) に置きかえることもできる!

<英文法超基礎⑥⑧> Lv.★★★★☆☆ 対象: 中2・中3~

① 副詞節を作る that

接続詞 that は名詞節の働き(「~ということ」)と副詞節の働きがある!

① (1.)を表す形容詞+that S'V'~: 「2. 」など

I'm glad (that) he passed the exam. 「私は彼が試験に合格してうれしい」

I'm sure (that) he will win. 「彼はきっと勝つと思う」

<感情・心理+that S'V'~タイプ>

- | | | | |
|--------|---|--------|--|
| • (3. |) | : 「4. | |
| • (5. |) | : 「6. | |
| • (7. |) | : 「8. | |
| • (9. |) | : 「10. | |
| • (11. |) | : 「12. | |

※このタイプの that は省略(13.)!

② (14.)
「15. 」 「16. 」

• He was so tired that he couldn't walk.

「彼はとても疲れていたので歩けなかった」

「彼が歩けないほど疲れていた」

• He was not so tired that he couldn't walk.

×「彼はとても疲れてなかったので歩けなかった」

○「彼は歩けないほど疲れてはなかった」

→主節文が(17.)のとき、16の「18. 」の意味となる。

☆ (19.) : 「20. 」 (L53)

を使って、「so A that S'V'~」の文を書き換えることができる!

He was so tired that he couldn't walk.

= He was too tired to walk.

② もう1つの so that 構文 と such that 構文

副詞節を作る that は ① でやったモノ以外にまだもう少しだけあります!
(高校の範囲なので、必要のない人は一旦スルーしてもかまいません)

② (21.) ← 語順に注意!
22. 」

It was such a hard test that I couldn't solve it.

「それはとても難しいテストだったので、私は解けなかった」

③ (23.): 「24. 」

I studied very hard so that I could pass the exam.

「私は試験に合格できるように一生懸命勉強した」

④ (25.): 「26. 」

He ran fast, so that he caught the train.

「彼は速く走った、その結果その電車に間に合った」

※ so that の that は (27.) されることがある。

③ その他の副詞節を導く接続詞

• (28.): 「29. 」

(As soon as he saw me) he ran away.

「彼は私を見るとすぐに逃げた」

• (30.): 「31. 」

→ because ほど強い意味合いはない。聞き手もわかっているような理由を補足的に述べるときに使われ、文頭に置かれることが多い!

(Since you have a fever), you shouldn't go out.

「熱があるので、あなたは出かけるべきではない」

<英文法超基礎⑥⑨> Lv. ★★☆☆☆☆ 対象: 中3~

① 間接疑問

疑問詞を使った疑問文を(1.)にして、(2.),
前置詞の目的語とすることができる。これを(3.)という。

I don't know < where he lives > 「私は彼がどこに住んでいるのか
⑤ ⑦ ⑧ S' V' わからない」

② 間接疑問文の作り方

① 疑問詞が文の主語の場合 ← (4.) [L34・35]

→ (5.)!

Tell me < what happened > 「何が起きたのかを教えて」
⑦ ⑧① ②&S' V'

↑ Tell me. + What happened?
S V

② 疑問詞が文の主語以外の場合 → (6.)の語順に!

[1] Tell me < what he wants to do > 「彼が何をしたいのか教えて」
⑦ ⑧① ②&S' S' V' ^

→ (7.)は後ろが(8.)となる! [L35]

[2] I don't know < when he will come back > 「私は彼がいつ帰ってくるのか知らない」
⑤ ⑦ ⑧&M S' V'

→ (9.)は後ろが(10.)となる! [L36]

Do you know < how he goes (to school) >? 「あなたはどうやって
⑤ ⑦ ⑧&M S' V' 彼が学校に行っているのか
知ってる?」

I want to know < how tall he is > 「私はどれほど彼が背が高いのか
⑤ ⑦ ⑧&C' S' V' を知りたい」

- how には how SV 「1. 」[方法]と
how + 形・副 SV 「2. 」[程度]の用法があるので注意!

③ that以外の形式主語構文

< Where she went > is uncertain. 「彼女がどこに行ったのかは不確かだ」
⑤ & M S' V' ④ ③

↓
It is uncertain < where she went >

よく、「it ~ that構文」と呼んだりするが、that以外にも形式主語構文を作れる！
→ 名詞節が(13.)になるときは、形式主語の(14.)を使うこともできる！

④ whenの見極め

whenには「15. 」と訳す名詞節と「16. 」と訳す副詞節の2つの働きがあるので、どの働きをしているのかを判断する必要がある！

① I don't know when he will leave.

→ when he will leave は knowの(17.)として働いているので、
この when は(18.)となる。
「私は(19.)知らない」

② I will give him the book when he comes.

→ ②の文は when he comes という節を取り除いても、
I will give him the book = (20.)の文、と文法的に何も
問題がないので、この when は(21.)となる。
「(22.)私はその本を渡すつもりだ」

☆ 未来のことでも現在形にするのは(23.)節の whenのみ！

<英文法超基礎⑦⑩> Lv.★★★☆☆ 対象: 中3~

① 関係詞の働き

名詞を節 [= 文の形] で修飾するときに使うのが (1.) で、1には (2.)・(3.)・(4.)がある。

① I have a friend. + ② He lives in Canada. ← "a friend = He"

→ I have a friend [who lives in Canada]. 「私にはカナダに住んでいる友人が居る」

この who が関係詞で "a friend" を修飾する [5.] として働いている。
この修飾される名詞 (今回は a friend) を (6.) と呼ぶ。

②の文で "He" とされていた①の "a friend" が who に置き換えられて1つの文になっている。who 自体は (7.) として働いている、ということは品詞は (8.) なので、この who は (9.) になります。

★ 関係詞のカタマリは [10.] を作って、後ろから名詞を修飾する!

② 関係代名詞の種類

関係代名詞は (11.) + (12.) の4種類で、先行詞が「人」か「人以外」かによって異なり、節中で主語として働く (13.)、目的語として働く (14.) がある。

<関係代名詞の種類>

先行詞	主格	目的格	(所有格)
人	(15.)	(18.)	whose
人以外	(16.)	(19.)	whose
両方	(17.)	(20.)	—

※ 関係代名詞の what は少し特殊なので、また詳しくやります!

I want a house [which [that] has a nice kitchen].
⑤ ⑩ ⑨ → 人以外 = it [a house] V' O'

→ 先行詞が "a house" は「人以外」なので関係代名詞は which となる。
which はカタマリの中で (21.) として働いているので、主格の関係代名詞!

「私は、すてきな台所がある家がほしい」

③主格の関係代名詞

主格用法とは、関係代名詞がそれに続く節の中で (22.) の働きをしていることを言う。

先行詞が人の場合は (23.), 人以外の場合は (24.), またはその両方が可能な (25.) を使う。また、関係詞の後ろの V は (26.) に合わせる。

→ 先行詞が人の場合は that よりも who を使うことがほとんど!

The people [who live (next door)] are friendly.
⑤ S(=they) V' ⑩ ⑥

「隣に住んでいる人々は接しやすい」

I visited the shop [which opened (last week)].
⑤ ⑩ ⑥ S(=it) V'

「私は先週オープンしたその店を訪れた」

④目的格の関係代名詞

目的格用法とは 関係代名詞がそれに続く節の中で (27.) の働きをしていることを言う。

先行詞が人の場合は (28.)・(29.)

人以外の場合は (30.)・(31.) を使う。

☆ 目的格の関係代名詞は (32.)!

The boy [(whom) [that] I met yesterday] was Tom.
⑤ O' S' V' ⑩ ⑥

「私が昨日会ったその少年はトムだった」

This is the city [(which) [that] I lived in last year].
⑤ ⑩ ⑥ ⑥のO' S' V' ⑩

「ここは、昨年私が住んでいた街だ」

< 関係代名詞の省略を見極めるコツ >

(33.) を見たら、V の後ろに (34.) がきチェック

→ なければ、which や that が省略されている! ⑥の後ろも!

The test I took yesterday was difficult.
⑥ S V ⑩

<英文法超基礎 ⑦①> Lv. ★★★★★☆☆ 対象: 中3・高校〜

① 関係代名詞の that

< 関係代名詞の that が使われやすいケース >

① (1.) の形容詞 / (2.)・(3.) などの序数詞

This is **the most beautiful** place [that I have ever visited].

「ここは私が今まで訪れた中で最も美しい場所だ」

★ the + 最上級 + 名詞 + (that) S have ever Vp.p.

「4.」

The first book [that I read] was Momotaro.

「私が初めて読んだ本は『ももたろう』だった」

「唯一の」

「まさにその」

「同じ」

(5.), (6.), (7.) などの限定の強い修飾語句

This is **the only** pen [that I have]. 「これは私が持っている唯一のペンだ」

② (8.), (9.), (10.) など

All cars [that I want to buy] are very expensive.

「私が買いたいと思っている全ての車はとても値段が高い」

③ 疑問詞の (11.) がある場合

Who is the man [that you met at the station]?

「あなたが駅で会った男性は誰ですか」

④ 先行詞が (12.) の組合せで成り立っている場合

Look at the man and his cat [that are walking in the park].

「公園で歩いている男性とネコを見て」

⑤ 関係代名詞が (13.) となっている場合 ← この that は省略できる

He is not the great player [(that) he once was].

「彼は以前のような偉大な選手ではない」

③〜⑤はthatしか使えない!

② 関係形容詞について

関係形容詞は (14.)・(15.)・(16.)の3つ!

→ 14 は 関係代名詞の所有格とされ、先行詞は (17.)どちら
も可!

・ I have a friend + His father is a teacher.

→ I have a friend ^② [whose father is a teacher] _{⑤ ⑦ ⑧ (形) S' V' C'}

「私には 父親が先生である友人がいる」

・ I bought a house. + Its roof was blue.

→ I bought a house ^{人以外} [whose roof was blue] _{⑤ ⑦ ⑧ (形) S' V' C'}

「私は 屋根が青色の家を買った」 → the roof of which に言い換える
こともできる

< 関係形容詞 whose の考え方 >

・ whose 自体は (18.)として働いて、名詞を修飾する!

・ 必ず (19.)の形をとり、そのカタマリは (20.)になる!

③ 名詞 + that 節 ← 読解で大事!

名詞のあとに、that... が続くとき、「21. 」と訳す同格の
that と「22. 」と訳す関係代名詞の that の 2 パターンがある!

< 同格の that と関係代名詞の that の見分け方 >

that の後ろが (23.)なら同格の that 節!

(24.)なら関係代名詞の that!

① The idea ^⑤ <that _⑦ the earth _S is _V flat _C> _⑩ is _{V'} wrong. _⑪

→ that の後は (25.) → 「地球が平らだという考えは間違いだ」

② The idea [that I believed _⑧] was wrong.

→ that の後は (26.) → 「私が信じていた考えは間違いだ」

<英文法超基礎⑦②> Lv.★★★☆☆ 対象:中3~

① 仮定法とは

「仮定法」とは「**実際とはちがう、仮にそうだったら**」を表すときに使われる形式
→「**仮想**」であることを示すために (1.)をズラす!

② 仮定法過去

「(今はちがうけど) 今、仮にこうなら」と (2.)の**事実**や**状況**に反する
仮定を表す場合、(3.)を使う! この形を**仮定法過去**という。

<仮定法過去の基本形>

(4.)
「5. 」

If I were you, I would help her. 「もし私があなただったら、
彼女のことを**助けるだろう**」
if節[条件・仮定節] 帰結節

→ 主語がIにもかかわらず、動詞が (6.)になっているのは、仮定法において
be動詞の過去形の形は元々すべて (6.)だから!

↑ただ今は、was (普通の過去形の文)が使われることが多くなっている。

☆「**現実から離れている**」ことを表すために (7.)を使う!

If I had time tomorrow, I could go with you.

「もしあす私に時間があるなら、あなたといっしょに行けるのになあ」

→ 未来においても**可能性がありえない**ことを表すときは、**仮定法過去**を使う。

③ 現在の事実に反する願望

I wish I were younger. 「もっと若ければなあ」

→ 「(実際はちがうけど) そうであればいいのに」と**願望**や**嘆き**を表す。

「**現在**」と異なる**願望**を表すので、wishに続く節の中は (8.)となる。

☆ S wish S' + (9.):「10. 」

I wish I could speak English. 「英語を**話せたらなあ**」

4 直説法と仮定法

「実際にあること・あったこと」を述べる動詞の活用の仕方を(11.)といふ。
いわゆる普通の**現在形**とか**過去形**のこと!

・ If Mike **is** not busy, he **will** help me.

「もしマイクが忙しくなければ、手伝ってくれるだろう」

→「もし忙しくないなら…」と言っているのは、「忙しい」可能性と「忙しくない」可能性を半々で表すイメージで話してる。このときは単なる条件を表す直説法の文となる。(仮定法ではない!)

・ If Mike **were** not busy, he **would** help me.

「もしマイクが忙しくなかったら、手伝ってくれるのだが」

→「今マイクが忙しい」のはわかってる状況で、「もし忙しくないなら…」と**仮の話**として述べている。← **これが仮定法!**

＜仮定法の見極め方＞

(12.)があつたら、ではなく (13.)があつたら、
で判断する! → (14.)として機能する!

Q 「試験に受かるといいね」と言うとき、wish と hope のどちらを使う?

・ I **wish** you **could** pass the exam. / I **hope** you **pass** the exam.

→ **仮定法**なので、「(受かるはずはないけど)」 → **直説法**なので、「受かる可能性」を含むニュアンスを含んでしまう。(X) 含んだニュアンス! (O)

5 その他の仮定法の表現

・ (15.) : 「16.

Without your help, I **couldn't** finish the job.

= If you **didn't** help me, ... 「(もし)あなたの**助けがなければ**、

その仕事を終えることができないだろう」

・ (17.) : 「18. 」

If only I **had** wings! 「翼がありさえすればなあ」

= I **wish** I **had** wings.

・ (19.) : 「20. 」

I'd like to meet your friends. 「(もしよければ)あなたのお友達に**会いたい**」

